

### 和仏法律学校講義録

掛下, 重次郎 / 若槻, 禮次郎 / 矢作, 榮藏 / 松岡, 義正 /  
赤司, 鷹一郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2

(号 / Number)

号外の4

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1901-03-25

# 和佛法律學校

## 講義錄

第貳部

號外之四

商法商行為 (自八二七) 法學士赤司鷹一郎

商法海商 (自一三三) 法學士掛下重次郎

破產法 (自三二二) 法學士松岡義正

經濟學各論 (自一四九) 法學士矢作榮藏

現行租稅法論 (自二四九) 法學士若槻禮次郎



090  
1900  
2-2-4

アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ直チニ賣主ニ對シテ其旨ヲ通知スルノ義務アルコトヲ定メタリ賣主ニ於テ若シ此等ノ義務ヲ怠リ目的物ヲ受取リタル後運滞ナク検査ヲ行ハス又ハ瑕疵アルコトヲ發見スト雖モ賣主ニ通知ヲ發セタルトキハ制裁トシテ賣主ニ對シテ契約ノ解除代金ノ減額又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得テラシメタリ

然レトモ前述検査ノ義務ヲシテ絕對的ニシテ且ツ速時ニ爲スヘキモノトセハ受取人ニ對シテ苛酷ニ失スルノ場合ナシトセヌ目的物ニ隠レタル瑕疵アル場合ニ於テハ通常ノ検査方法ニ依リ容易ニ瑕疵ヲ發見スルコトヲ得ス受取人ニ對シテ速時ニ瑕疵ヲ發見スルニ非テハ救済ノ方法ナシトスルハ受取人ニ對シテ苛酷ナリト謂ハサルヲ得ス受取人ハ元來民法ノ規定ニ依レハ検査ノ義務ナキニ拘ラス商人間ノ賣買ニ於テ可成速ニ權利ヲ確定シ後日ニ至リテハ擔保ヲ請求スルコトヲ得テラハムルコトヲ必要トシ特ニ商法ニ於テハ多クハ検査ノ義務アルコトトセリ然レトモ隠レタル瑕疵アル場合ニ於テハ多クハ普通ノ検査方法ニ依リテハ之ヲ發見スルコトヲ得ス商人ヲシテ物品ヲ受取ルヤ否直チニ精細

ナル検査ヲ爲スヘキモノトスル時トシテ不能ナルノモナラス商業ノ迅速ヲ妨害スルノ弊アリ故ニ隠レタル瑕疵ニ付テハ六箇月内ニ発見シタル場合ニ於テ直チニ其旨ヲ賣主ニ通知シタルトキハ契約ノ解除代金減額若クハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得トノ規定アルナリ

以上述ヘタル所ハ賣主カ善意ナル場合ノ規定ナリ買主ヲシテ目的物ヲ受取ルヤ否直チニ之ヲ検査シ若シ瑕疵又ハ數量ニ不足アルコトヲ発見シタルトハ之ヲ通知セシムル義務アルモノト定メタルハ公益上ノ理由ニ基クモノナリト雖モ若シ賣主カ惡意ナル場合ニ於テハ猶ホ直チニ検査シ瑕疵又ハ數量ノ不足ヲ発見シタルトキハ之ヲ通知スヘキ義務アルモノトセハ其弊ヲ實ニ勸カラズ賣主ハ惡意ナルカ故ニ既ニ瑕疵又ハ數量ノ不足ナルコトヲ知ルモノナリ既ニ瑕疵アリ數量ニ不足アルコトヲ知ル者ニ對シ再ヒ通知ヲ發セシムルハ無用ノ事項ナリトス此公益上ノ理由ニ基キ買主ヲシテ或種類ノ義務ヲ負擔セシメタリ

之カ爲メニ惡意ノ賣主ニ對シテハ尙ホ検査及上通知ノ義務アリトシ此義務ヲ怠ルトキハ擔保ヲ請求スルコトヲ得トノ規定アリシカ惡意ノ賣主

目的物ニ瑕疵アリ數量ノ不足ナルコトヲ知ルニ拘ラス高一ヲ僥倖セントシ其目的物ヲ買主ニ送付スルノ弊ヲ生セン此ノ如キハ商業ノ安全及ヒ商業上ノ信用ヲ妨害スルモノニシテ公益ノ爲メニ設ケタル規定ハ時トシテ却テ公益ヲ害スルノ規定タル場合ヲ生セン故ニ商法第二百八十八條第二項ニ於テ第一項ニ對スル除外例ヲ設ケ買主ハ惡意ノ賣主ニ對シテハ目的物ヲ受取ルヤ否之ヲ検査スルノ義務ナク又瑕疵及ヒ數量ノ不足ヲ発見スルモ其旨ヲ通知スルノ義務ナキモノトセリ隨テ賣主ニ惡意アリタル場合ニ於テハ民法ノ規定ヲ適用スヘク買主ハ民法第五百六十四條ニ依リ契約ノ時又ハ事實ヲ知リタル時ヨリ一箇年内ニ民法第五百六十五條及ヒ第五百七十條ノ規定ニ從ヒ擔保ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

二 買主ノ運搬ニ關スル規定ニ既ニ述ベル如ク買主一定ノ時期ニ於テ履行ヲ受クルノ義務アリ而シテ買主其目的物ヲ受取ル時トシテ拒ミタルトキハ買主ハ其目的物ヲ供託シテ債務ヲ免レ其目的物カ供託ニ適セス又ハ滅失毀損ノ虞アルトキ又ハ其保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ

競賣ニ付シ其代價ヲ供託スルコトヲ得ルハ民法第四百九十四條及第四百九十七條ノ規定スル所ナリ然レトモ民法ノ規定ニ依リハ其目的物ヲ競賣スルニハ裁判所ノ許可ヲ要シ商業上ニ於テハ不便抄カラス故ニ商法ハ其第二百八十六條ヲ以テ外國ノ例ニ倣ヒ之ニ關スル例外ノ規定ヲ設テ裁判所ノ許可ヲ必要トセス之ニ代フルニ他ノ條件ヲ以テセリ其競賣ヲ爲スニ必要ナル條件ハ

第一 賣主ハ其目的物ノ競賣前相當ノ期間ヲ定メ催告ヲ爲スコト

第二 賣主ハ其目的物ノ競賣後遲滞ナク買主ニ通知スルコト

ニシテ其目的物損敗シ易キ物ナルトキハ催告ノ暇ナキヲ以テ催告ヲ要セス直ニシテ競賣ニ付スルコトヲ得ヘシ(商法第二八六條第二項)

以上述フル所ニ據リ賣主ハ其目的物ヲ競賣ニ付シタルトキハ其代金ヲ供託セタルヘカラス然レトモ買主ニシテ賣主ニ對シ未タ代金ヲ支拂ハサルトキハ賣主ハ其競賣ニ依リ得タル代金ノ全部又ハ一部ヲ以テ自己ヲ買主ニ對シテ有スル債權ニ充當スルコトヲ得ヘシ

### 第三節 買賣契約ノ解除

契約ノ解除ニ關スル原則ハ民法第五百四十條以下ノ規定スル所ナリ茲ニハ唯解除ニ關スル民法規定ノ例外ヲ説明セントス

民法第五百四十二條ニ依レハ契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲ササルトキハ催告ヲ爲テ直チニ解除ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ同第五百四十條ノ規定ニ依リ其解除ハ之ヲ相手方ニ表示スルコトヲ必要トスルカ故ニ之ヲ商事ニ適用セシカ無益ノ手數ヲ要シ不便極リナク且ツ此解除權ハ民法第五百四十七條ノ規定ニ依リテ催告ヲ爲シタル後ニ非サレハ消滅セサルカ故ニ時トシテ當事者ノ一方ニ意外ノ損失ヲ被ラシムルコトナシトセス故ニ實際ノ便宜ニ依リ我商法ハ第二百八十七條ニ於テ契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ相手方カ

論議ノ履行ヲ怠リ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方キ特ニ其義務ノ履行ヲ請  
求シタル場合ノ外契約ヲ解除セラレタリト看做スヘキ旨ヲ規定スルノ趣

### 第三章 交互計算

交互計算ハ信用制度ノ一ニシテ經濟思想ノ發達ニ伴ヒ商人間ニ於テ簡便ノ取  
引ニ付キ一計算ヲ爲スノ煩ヲ避ケンカ爲メニ一定ノ期間内ニ生シタル債權  
債務ハ直チニ之カ計算ヲ爲サシテ其期間終了ノ時ニ至リ債權債務ノ總額ヲ一  
括シテ相殺ヲ爲シ其殘額ヲ授受スルノ慣例ヲ生セリ我商法モ亦此慣例ヲ認  
メ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ今左ノ順序ニ從ヒ交互計算ノ概要ヲ說明セシム

(第一) 定義 第十二條ニ於テハ「突發ノ買賣ハ當事者ノ意思表示ニ因リ一黨ノ  
(第二) 交互計算ノ效力 附則ニ於テハ「  
(第三) 交互計算ノ終了 同ノ規定ニ從ヒ第五百四十四條以下ノ規定ニ從ヒ

#### 第一節 交互計算ノ定義

交互計算トハ平常取引ヲ爲シ商人間及ヒ商人及ヒ非商人間ニ於テ一定ノ期間  
内ニ其取引ヨリ生スル債權債務ノ總額相付キ相殺ヲ爲シ若シ殘額尠クハ計算  
其殘額ヲ支拂フコトヲ約スルモノニシテ商法第二百九十一條ニ掲ケル所タリ  
左ニ此定義ヲ分析スルハ或程度ノ取極ニ至ルモ其趣旨ヲ明瞭ニ示セシム

(第一) 交互計算ハ契約ナリ  
交互計算關係ハ契約ニ因リ生スルモノニシテ其契約ハ明示タルト默示タルト  
ヲ問ハズ又書面ヲ以テスルコトヲ必要トスルモノナリ其契約ノ性質ニ基キ  
(第二) 交互計算ノ當事者ハ其雙方商人ナルカ若クハ少クとも其一方カ商人タ  
ルコトヲ要スルモノナリ一黨ノ間ニ於テハ「  
交互計算ハ前述ノ如ク經濟上ノ必要ニ基クモノニシテ簡便ノ取引ニ付キ一  
計算ヲ爲スノ煩ヲ避ケルカ爲メニ生シタル制度ナリ而シテ商人ニ非タル者ハ  
間ニハ取引ノ類繁ナルコト稀ナルヲ以テ此等ノ者ノ間ニ交互計算ヲ認ムルノ  
必要ナク若シ之ヲ認ムルハ必要アリト爲シ民法中ニ規定スヘキモノナラバ  
ニ商法ニ於テハ少クとも當事者ノ一方カ商人タルコトヲ必要トスルモノナリ

(第三) 交互計算ハ平常取引ヲ爲ス者ノ間ニ於テノミ成立スルモノナリ  
 平常取引ヲ爲サザル者ノ間ニ交互計算關係ヲ認ムルノ必要ナキコトハ交互計  
 算ノ目的ヨリ推知スルコトヲ得ヘキ自然ノ結果ニシテ其平常取引ヲ爲スヤ否  
 ヤハ事實問題トシテ箇箇ノ場合ニ付キ之ヲ決スルノ外一定ノ標準ヲ與フルハ  
 殆ト不能ニ屬ス

(第四) 交互計算ニ入ルヘキ債權債務ハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生ラタルモノ  
 ナルコトヲ要ス  
 交互計算ニ於テ一定ノ期間ヲ設ケルヲ必要トセルハ交互計算ノ性質ニ基クモ  
 シニシテ其期間ハ當事者間ノ契約ニ因リ定マルモノニシテ當事者間ニ特約ナ  
 タンハ六箇月ヲ期間トス

(第五) 交互計算ハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ之ヲ  
 爲スルコトヲ要ス  
 交互計算トハ一定ノ期間内ニ發生セル箇箇ノ債權債務ニ付キ一一此方相殺ヲ  
 爲スル謂ニ非スシテ一定ノ期間内ニ發生セル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲

スノ謂ナリ  
 (第六) 交互計算ハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺  
 フ爲シ其殘額ヲ支拂フヘキモノナリ  
 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ヲ承認シタル後ハ原則トシテ  
 其計算書中ニ掲ケタル債權債務ノ各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス換言  
 スレハ其決算ハ確定不可分ニシテ其決算ノ殘額カ始メテ特立ノ債權債務ト爲  
 ルモノナリ

第二節 交互計算ノ效力

交互計算ノ效力ニ付キ其主要ナルモノヲ舉ケレバ  
 (第一) 相殺後殘額アル場合ニ於テ債權者ハ其殘額ノ支拂ヲ受クルノ權利アリ  
 此效力ハ交互計算ノ效力中最モ主要ナルモノニシテ一定ノ期間終了後其期間  
 内ニ生セル債權債務ヲ綜合シ交互計算契約者中孰レカ殘額ノ支拂ヲ受タル權  
 利アリヤヲ確定スルハ交互計算ノ主タル目的ト謂ハサルヘカラヌ一定ノ期間

終了ノ後當事者ハ債權債務ノ各項目ヲ記帳シタル計算書ヲ調製セザルハ其罰  
 以而シテ相手方ニ於テ其計算書ヲ承認シ其後其計算書ハ確定不可分ノ事  
 ト爲リ錯誤及ヒ脱漏セル場合ヲ除ク外異議ヲ唱テ得ザルモノナ  
 ルコトハ實ニ商法第二百九十四條ノ規定スル所ニシテ其計算書ニ依リ債權者  
 上爲リタル者ハ其殘額ノ支拂ヲ請求スルノ權利ヲ有シ其不履行ニ對シ別ニ  
 箇ノ債權債務發生ノ原因ヲ證明セスシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス  
 (第二) 交互計算ノ債權者ハ反對ノ契約ナキ場合ニ於テ計算閉鎖ノ日以後ハ其  
 殘額ニ對シ法定利息ヲ請求スルノ權利アリ

是レ商法第二百九十五條ノ規定スル所ナリ抑モ交互計算當事者間ニ於テ此ノ  
 如キ契約ヲ爲ラス且ツ法律ニ於テモ亦此ノ如キ規定ヲ設ケザルトキハ計算閉  
 鎖ノ日以後其殘額ニ對シ利息ヲ請求スルコトヲ得ズ是レ商法第二百七十五條  
 ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得ヘキ場合ヲ列記シタルヲ以テナリ然レトモ計  
 算閉鎖後之ニ利息ヲ附スルハ適當ノ事ニシテ商法第二百七十五條ヲ認定シテ  
 之ト同一ノ理由ニ基クモノナリ諸君或ハ曰ハシ交互計算當事者ハ債權債務ノ

各項目ヲ交互計算ニ繼入レザル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ得ザルヤト然  
 レトモ既ニ述ヘタル如ク商法第二百九十五條ハ實ニ商法第二百七十五條ト同  
 一ノ精神ニ基キ規定セラレタルカ故ニ當事者間ニ此ノ如キ契約ヲ結ブハ全ク  
 自由ナルノミナラス計算閉鎖後其殘額ニ對シ利息ヲ附セザルコトヲ約スルモ  
 亦自由ナリ隨テ商法第二百九十五條ハ單ニ當事者間ニ反對ノ契約ナキ場合ニ  
 於テ之カ適用ヲ見ルノミナラス計算閉鎖後其殘額ニ對シ利息ヲ附セザルコトヲ  
 商法第二百九十五條ハ第二項ニ於テ「前項ノ規定ハ債權債務ノ各項目ヲ交互計  
 算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨クス」ト明言セリ予ハ本項ノ  
 如キ規定ノ必要ヲ認めザル者ナリ本項ノ規定ナシト雖モ特ニ禁止ナキ限りハ  
 此ノ如キ契約ヲ爲スハ當事者ノ自由ニシテ當事者ハ本項ノ規定ヲ待テテ始メ  
 テ此ノ如キ契約ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ズ本項ノ規定ハ單ニ疑ヲ避ケンカ  
 爲メニ特ニ明文ヲ掲ケタルモノナリト解スルヲ至當トス  
 以上列記シタル效力ハ其主要ナルモノニシテ特ニ注意ヲ要スヘキモノナリ此  
 他交互計算ノ性質ヨリ生スヘキ數多ノ效力アルモ別ニ説明ヲ要セザルヲ以テ





ナリトス會社ニ在リテハ社員ノ出資ハ法人ノ財産ト爲リ民事上ノ組合ニ在リテハ其財産ハ組合員ノ共有ニ屬スト雖モ匿名組合ニ在リテハ其財産ハ相手方ニ歸屬スルモノナリトナラシメテ出資者ノ責任ニ非スシテ之ヲ救済ニ解セザルヘカラス蓋シ匿名組合ニ於テハ常ニ當事者ノ一方ハ營業者ニシテ他ノ一方ハ出資者ナリ而シテ出資者ハ營業者ノ營業ニ對シテ出資ヲ爲ス者ニシテ營業者ノ營業ニ關與スル者ニ非ナルカ故ニ業務執行ノ任ニ當ル者ハ營業者ニシテ組合員ハ單ニ金錢又ハ其他ノ財産ヲ出資セザルヘカラス

(第四) 匿名組合員ハ相手方ノ營業ニ因リテ生シタル損益ヲ受クルモノナリ匿名組合員ハ財産ヲ出資スルト共ニ其財産ヲ營業者ニ歸屬シ營業者ハ自由ニ其財産ヲ處分スルコトヲ得ヘシト雖モ匿名組合員ハ毫モ營業者ノ營業ニ關與スルコトヲ得ス單ニ其營業ヨリ生シタル利益ヲ受ケ若クハ其營業ヨリ生シタル損失ヲ負擔スヘキノミ

以上述ヘタル所ニ依レハ匿名組合ニ於テハ營業ヲ營ム者ハ營業者ニシテ匿名

組合員ハ之ニ與ルコトヲ得キ故ニ匿名組合員第三者ニ對シ關係ヲ有スル者トシテ隨テ匿名組合員ノ氏名又ハ其商號ハ之ヲ營業者ノ商號トシテ又ハ營業者ノ商號中ニ使用スルコトヲ得ナルヲ以テ原則トシ匿名組合員ニシテ其氏名又ハ其商號ヲ使用スルコトヲ許諾シタルトキハ其使用後第三者ニ對シ營業者ノ連帶シテ其責任ヲ負ルカ方ラシメ商法第二九九條是レ商法第百十六條ト同

(二)ノ理由ニ基クモノナリ合ニ然モ出資者或ハ商業者ニ關スルハ

### 第二節 匿名組合ノ效力

匿名組合ハ契約ヨリ成立スルモノナリ隨テ契約ノ效力ニ關スル一般ノ原則ハ猶ホ匿名組合ニ適用スヘキモノトシ今匿名組合契約ニ關スル特別ノ效力ヲ舉ゲテハ

(第一) 匿名組合員ノ權利ハ出資者ノ株式五割ハ無シテ商業者ノ對シニ利益ヲ分配シ割合ハ四割ニ契約ニ關シテ定メザルモノニシテ特約ナキニハ民法組合

ノ原則民法第六七四條ニ依リ營業者ノ資本及匿名組合員ノ出資額ノ割合ニ依リ之ヲ定ムルモノニシテ組合員ハ純利アルトキハ之カ分配ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ其支出シタル出資カ損失ニ因リ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非ナレハ利益ノ分配ヲ請求スルコトヲ得サルモノナリ

(二)業務ヲ監督スルノ權ヲ有スル者ハ其職務履行ノ爲メ必要ナル時ニ該組合員ハ營業年度ノ終ニ於テ帳簿ヲ閱覽ヲ求メ若クハ營業ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルノミナラス重要ナル事由アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ營業ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得第三〇四條

(三)組合ノ終了シタル場合ニ於テ出資ノ返還ヲ請求スルノ權ハ其出資額ニ相當スル財產ヲ返還セザルヘカラス然レトモ組合ノ損失ニ因リ其出資額減少シタルトキハ其殘額ヲ返還スルノ義務アリ

(第二)營業者ノ權利員ハ其商號ハ其營業ノ商號ニシテ又ハ營業營業者ハ契約ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ出資ヲ請求スルノ權アリ組合員

ノ里程又ハ日數カ豫定ヨリ減少シタルハ偶然ノ結果ナルノミナラス航海全體ヲ完了シタルモノナレハナリ

○死亡ノ際ニ於ケル權利 第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス商法第八八三條

三條佛商法第二六五條獨逸海員條例第五一條

海員雇入ノ契約ハ一航海ニ於ケル場合ト期間ヲ定メタル場合トヲ問ハス海員死亡シタルトキハ其雇入契約ハ終了スルヲ以テ其以後ノ給料ヲ與フルノ必要ナケレトモ船舶所有者ハ其死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂ハサルヘカラス而シテ又其死亡カ職務ヲ行フニ原因シタルトキハ其海上タルト外國タルト又内國タルトヲ問ハス船舶所有者ハ其葬式費用ヲ負擔セザルヘカラサルナリ

○不當ナル雇止ノ場合ニ於ケル權利 第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止セラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一ヶ月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止セラレ

タルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテ  
 ノ送還ヲ請求スルコトヲ得商海法第八七七條第一項第八七八條商海法第二五  
 二條獨逸海員條例第五八條第五九條) 船長ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコ  
 トヲ得ヘド雖モ法律ハ海員ニ付テハ之ニ反スルノ原則ヲ採用シタリ是レ海  
 員ハ船長ノ如ク信用上ノ地位ヲ有セザルト壓制ヲ被リ易ク且ツ其教育不十分  
 ニシテ思慮ノ淺薄ナルカ爲メニ法律上ノ保護ヲ必要トスルトノ二理由ニ出ツ  
 ルニ外ナラサルナリ故ニ前條ニ於テ船長カ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ヘキ場合  
 ヲ定メタルモノニシテ此等ノ場合ノ一ニ依リテ海員ヲ雇止ムルトキハ其雇止  
 ハ正當ナリト雖モ其他ノ場合ハ然ラサルナリ海員カ法律カ認メタル正當ノ事  
 由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一  
 箇月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得ルノミナラス若シ雇入港外ニ於テ雇止メラ  
 レタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マ  
 テ送還ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ蓋シ其給料及ヒ送還ノ費用ハ理

由ナキ雇止ニ基ク損害ト謂フコトヲ得レハナリ而シテ若シ法律カ特ニ此規定  
 ヲ設ケタルニ於テハ海員ハ不當雇止ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ハ之ヲ民法  
 ノ普通ノ規定ニ基キテ請求セザルヘカラス然ルトキハ海員カ實際ノ損害額ヲ  
 證明スルニ於テハ法律カ茲ニ規定シタル額ヨリ多ク請求スルヲ得ルコトアル  
 ヘシト雖モ亦證據ノ不十分ナル場合ニ於テハ其請求ノ立ツ額ハ法律カ規定シ  
 タル額ニ違セザルコトアルヘシ然レトモ法律カ特ニ本條ニ於テ海員ノ請求ス  
 ルコトヲ得ヘキ損害額ヲ豫定シタルヲ以テ之カ爲メニ溢訴ヲ防キ實際上ノ便  
 利大ナリト云フヘキナリ又普通ノ場合ニ於テ海員カ其服役シタル期間ニ對ス  
 ル給料ノ外請求スルコトヲ得ル額ヲ一箇月分ノ給料ト定メタルハ海員ハ一箇  
 月分ノ餘裕アルトキハ再ヒ他ニ雇口ヲ求メテ其業ニ就クコトヲ得ヘクシテ雇  
 止ノ爲メニ糊口ノ途ヲ失ヒ貧困ニ陥ケルノ患ナキモノト認メタルニ由ルナリ  
 本條ニ於テ海員ノ送還ヲ發航ノ港マテト爲ナスシテ之ヲ其雇入港マテト爲シ  
 タル所以ハ海員ノ雇入及ヒ雇止ハ特別法船員法ノ規定ニ依リ管海官廳ノ公認  
 ヲ必要ト爲スカ(第二六條故ニ何レノ地ニ於テモ雇入ヲ爲スコトハ之アラサル

ハシ是ヲ以テ雇入港マテ送還スルモ實際上船舶所有者ニ取テテ不便少カルヘシ又雇入港マテ送還スレハ海員ヲ最モ其原状ニ復シタルモノト云フコトヲ得ヘキヲ以テナリ

本條ノ規定ハ一面ニ於テハ海員ノ權利ナレトモ他ノ一面ニ於テハ船長ニ自由ヲ得セシムルノ規定タルナリ即チ船長ハ適當ナル海員ヲ雇入ルルノ必要アルカ故ニ或海員ヲ認メテ不適任ト爲シタルトキハ總令第五百八十一條ニ掲ケタル正當ノ事由ナシト雖モ契約期間中タルニ拘ラス賠償トシテ一箇月ノ給料ヲ與ヘ自由ニ之ヲ雇止ムルコトヲ得ルモノト爲シタルハナリ

○雇止ヲ請求スルノ權利——第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘザルニ至リタルトキ

三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得獨逸海員條例第六一條

船長ハ正當ナル事由アルトキハ第五百八十一條ニ規定スルカ如ク海員ヲ雇止ムルコトヲ得ルカ故ニ海員ノ方ニモ正當ナル事由アルトキハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得セシムルハ兩者ノ間能ク其權衡ヲ保ツモノト云フヘク且ツ之ヲ規定スルトキハ爭ヲ後口ニ絶ツヘキナリ即チ海員カ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ヘキ事由左ノ如シ

(一) 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ 此場合ハ當事者ノ意思ノ推定ニ係ル盡シ日本海員ハ船舶カ日本ノ國籍ヲ有スルカ故ニ其雇入ニ應ジタル場合多カクヘク若シ其船舶ニシテ最初ヨリ日本ノ國籍ヲ有セナリシニ於テハ其雇入ニ應セナリシナラン故ニ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキニ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲スハ至當ナリ然レトモ此事由ニ因リテ海員ノ雇入契約終了スヘキモノニ非ス亦此事由ヲ以テ船長カ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ル權利ト爲スヘキ理アラサルヲ以テ之ヲ其權利ト爲サス此場合ニ於テハ獨リ海員カ

其雇止ヲ請求スルコトヲ得ルニ過キザルナリ故ニ此事由生シタリトモ海員ニシテ其船舶ニ留マリテ職務ヲ執ラント欲スルトキハ之ヲ繼續スルコトヲ得ルキヤ論ヲ俟タザルナリ

(二)自己ノ過失ニ因ラスレテ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケ其職務ニ堪ヘタルニ至ラタルトキ 此場合ハ第五百八十一條第一項第四號ヲ以テ船長カ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ル正當ナル事由ト爲シタル以上ハ之ト權衡ヲ得セシメンカ爲メニ茲ニ之ヲ揭クタルナリ此場合ニ廣ク海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキトモスレテ其疾病傷痕カ海員ノ過失ニ因ラスレテ發生シタル場合ニ限リタルハ他ナシ自己ノ過失ニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケタルトキハ是レ自ラ招キタルニ等シキモノニシテ正當ナル事由ト云フコトヲ得タルヲ以テナリ

(三)船長ヨリ雇待ヲ受ケタルトキ 婚姻又ハ養子縁組ノ如キ重大ナル身分上ノ關係ニ於テスラ當事者一方ノ雇待ハ他ノ一方ノ爲メニ婚姻又ハ養子縁組ヲ解除スルノ原因(離婚民法第八一三條第一項第五號離婚同第八六六條第一號タル

モノナレハ單ニ財産權上ノ關係ニ止マル雇傭契約ニ於テ海員カ船長ヨリ雇待ヲ受ケタルトキ之ヲ原因トシテ雇止ヲ請求スルコトヲ得トスルハ至當ノ規定ナリ

第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ヨリ生スル結果タルニ過キヌ即チ海員ノ雇止ノ請求カ正當ナル以上ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得トスルハ是レ亦至當ト云ハサルヘカラス

茲ニ注意スヘキ一ノ疑問アリ即チ本條ニ規定シタル事由アリテ海員カ雇止ヲ請求シタル場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料ヲ請求スルコトヲ得トアリ又第五百七十八條ノ規定ニ於テ海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスレテ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得トアリテ同條ニ依レハ海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケタル場合ニ於テ之ヲ原因トシテ雇止ヲ請求セシメタル單ニ治療及ヒ看護ノ費用ヲ請求スル場合ニ於テハ其休役中ノ給料ハ請求スルコトヲ得シテ單ニ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリテ餘ルニ海員

疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケテ一ニ箇月間療養シテ其後疾病又ハ傷病ヲ原因  
 トシテ雇止ヲ請求セタルトキハ海員ハ其給料ニ付テハ疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ  
 受ケタル前マデノ分ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マルカ將タ本條第二項ノ明文ニ  
 從ヒテ右一ニ箇月間休役中ノ分即チ雇止ノ日マデノ分ヲモ請求スルコトヲ得  
 ルカ換言スレハ第五百七十八條第二項前段ノ規定ト本條第二項ノ規定ト調和  
 セルヤ否ヤノ問題是ナリ本條ノ規定ニ依リ海員カ雇止ヲ請求スル場合ニ於テ  
 其以前疾病又ハ傷病ノ爲メ休役シタル場合ト疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケタル  
 直チニ雇止ヲ請求スル場合トヲ區別セスシテ單ニ其雇止ノ日マデノ給料ヲ請  
 求スルコトヲ得トアルカ故ニ雇止ノ請求前休役シタル場合ニ於テモ其間ノ給  
 料ヲ請求スルコトヲ得ルモノト解釋セサルヘカラス而シテ此ノ如ク解釋スル  
 トキハ第五百七十八條ノ規定ト少シク權衡ヲ保タサル嫌アリト雖モ過失才欠  
 勞務ニ服シタル者カ正當ニ其雇止ヲ請求スルトキハ普通ノ雇傭契約ノ場合ニ  
 於テモ雇止ノ日マデノ給料ヲ給スルハ一般ノ慣習トモ云フヘケレハ此場合ニ  
 於テ休役中ノ分ヲモ給與スルハ至當ノ規定ト云フヘキナリ

以上ハ海員カ有スル權利ナリ  
 ○海員ヲ雇止ムルコトヲ得ル船長ノ權利 第五百八十一條 左ノ場合ニ於テ  
 一 船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得  
 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ  
 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シテ重大ナル過失アリタ  
 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケ其職務ニ堪ヘザルニ至リタルトキ  
 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタ  
 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對シテ給料  
 ヲ請求スルコトヲ得  
 第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マデノ給料及ヒ運  
 入港マデノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アリ

キハ前項ノ規定ヲ準用ス爲商法第八七條第二項條商法第二五三條第二五四條獨逸海員條例第五七條ノ規定ニ依リテ海員ハ其職務ニ於テ其職務ニ關シテ正當ノ事由アルトキハ海員カ雇止ヲ請求スルコトヲ得ルカ如ク船長ニモ同シク海員ヲ雇止ムルコトヲ得ルモノト爲ササルベシカラス是ヲ以テ本條ニ於テ船長カ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ヘキ場合ヲ規定セリ即チ左ノ如シ

(一) 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ 船中ニ於テ或職務ヲ執ラシムル爲メニ雇入レタル海員カ其職務ニ不練熟等ニシテ不適任ナルカ如キ場合ニ船長カ之ヲ雇止ムルコトヲ得ト爲キハ至當ナリ

(二) 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ 是レ別ニ證明ヲ要セスシテ明カナリ唯海員ニ限ラス何人ト雖モ多少過失アルコトハ免レナレトモ海員カ重大ナル過失ヲ爲シタルトキハ之カ爲メニ船船所有者ノ損害ヲ受クルコト尠カラサルヘキヲ以テ重大ナル過失アリタル場合ニ限リテ雇止ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

(三) 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 海員カ禁錮ノ刑ニ處セラレタル

トキハ其刑期間中ハ船中ニ在ルコト能ハサルモノニシテ海員ノ職務ヲ執ルコト能ハサルノミナラス禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ國家ノ罪惡者中ノ輕カラサルモノナルカ依ニ之ヲ雇止ムルコトヲ得ト爲スハ至當ナリ然レトモ此場合ハ海員カ雇入後ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキニ限ル雇入以前其處刑ヲ受ケタルコトアリトモ之ヲ船長カ雇入ノ當時ヲ知スルト否トヲ分タス雇止ノ原因ト爲ラサルナリ法律カ海員ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ヲ雇止ノ原因ト爲シタルハ嚴禁セラルル者ハ其間實際船中ノ職務ヲ執ルコト能ハサルヲ重大ナル理由ト爲シタルニ由ルヲ以テナリ

(四) 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ 海員カ一時疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタリトモ暫時ニシテ快癒シ其職務ヲ執ルコトヲ得ヘキ者ハ之ヲ雇止ムルコトヲ得スト雖モ然レトモ疾病又ハ傷痍ノ爲メ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルカ如キ者ハ雇止ムルコトヲ得セシメタルヘカラス

(五) 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海中繼續スル能ハサルニ至リタルト



船舶所有者ノ都合ニ非ニテ不可航力ヲ因リ航海ヲ爲スルニ能ハザルニ至リタルトキ例ヘハ到著港トノ間ニ宜職ノ公布アリ又ハ禁令其他國ノ處分等ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキハ已ムヲ得タル事由ナルヲ以テ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ル原因ト爲シタリ但シ此場合ハ船舶カ沈没シ又ハ修繕スルコト能ハザルニ至リタル場合ヲ包含セス此等ノ場合ハ實體上船舶ハ航海不能ト爲リタルモノニシテ第五百八十七條ノ規定ニ從ヒ海員雇入契約ハ之ニ因リテ當然消滅スルモノナリ

以上列舉シタル五箇ノ場合ハ船長カ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ル正當ノ事由トシテ法律カ正當ト認メタルモノハ以上ノ場合ニ限ルモノニシテ此外ニ於テ如何ニ正當ナル事由アリト雖モ違ハ法律上正當ナル場合トハ認メサルナリ法律上船長ノ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ル場合ヲ以上ノ如ク制限シタルハ他テ第五百八十三條ノ規定ニ於テ海員カ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ル場合ヲ制限シタルカ如ク法律カ豫メ其場合ヲ定ムルトキハ當事者蓋シテ爭訟ヲ爲サザルカ爲メナリ而シテ此ノ如キ規定ハ他ノ立法例ニモ多ク見ル所ナリ

海員カ本條ニ規定スル場合ニ於テ雇止ヲラレタルトキ給料其他ノ請求權ハ各場合同一ナラザルナリ其第一號乃至第三號及ヒ第四號ノ疾病又ハ傷疾カ海員ノ過失ニ原因シテ生シタルモノナレトキハ第四號ノ場合ハ海員ニ過失アルモノトシテ雇止ヲ正當ナリト認メラレタルモノナレトモ第四號ノ疾病又ハ傷疾カ海員ノ過失ニ原因セザルトキ及ヒ第五號ノ場合ハ毫モ海員ニ尤ムヘキ事情ナク全ク已ムヲ得ザルニ出テタルモノナレハ其間海員ノ請求權ニ差異アラザルヘカラス即チ總テノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ハ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ第一號乃至第三號及ヒ海員ノ過失ニ原因セル第四號ノ場合ニ於テハ右服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ之ニ反シテ其他ノ場合ニ於テハ尙ホ右ノ給料ノ外雇止ノ日モヲノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得ルコトヲ爲キ得ル

○航海中船舶所有者ノ變更シタルトキ雇傭契約ヲ繼續スルヘキコトハ第五百八十四條 航海中船舶所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シテ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス(船員條例第六一條末項)

雇傭契約即チ本節ニ於ケル海員雇入契約ニ使用者タル船舶所有者ト勞務者タル海員トノ間ノ對人關係ニシテ船舶ト海員トノ間ノ關係ナラサルカ故ニ船舶所有者カ其船舶ヲ他ニ讓渡シタルトキハ其船舶ニ乗込タル海員ハ船舶ニ附隨スヘキモノニ非ス又使用者即チ船舶所有者ハ勞務者即チ海員ノ承諾アルニ非テハ其權利ヲ第三者即チ新所有者ニ讓渡スラ得サルコトハ雇傭契約ニ關スル原則民法第六二五條アルヲ以テ舊所有者カ新所有者ニ對シ海員雇入ニ關スル契約ヲ繼承セシメントスルモ海員ノ承諾ナキ限リハ其契約ハ海員ニ對シテ效力ヲ有セテアルヲ通則トスレトモ航海中船舶所有者ノ變更シタル場合ニ於テ此原則ヲ適用スルコトト爲ストキハ其船舶ニ乗込タル海員ハ新所有者トハ何等ノ關係ヲ有セサルカ故ニ新所有者ノ爲メニ航海ノ職務ニ服従スル義務ナク隨テ航海ハ中途ニシテ附隨セサルヘカラサルノ結果ヲ生スルニ至ルヘクシテ此ノ如キハ航海業獎勵ノ爲メ取ラサル所ナレハ法律ハ特ニ茲ニ例外ヲ設ケテ航海中ニ在リテハ縱令船舶所有者カ變更シタルトキト雖モ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有スルモノト爲シタリ然レトモ此

例外ハ船舶カ航海中讓渡シタル場合ニ於テハモ適用セラレルモノニシテ其航海ヲ終リ船籍港ニ在リテ讓渡シタル船舶トキハ普通ノ原則ニ從フヘキモノトス此場合ニ於テハ新所有者ハ從來ノ海員ニ對シテ更ニ雇入ノ契約ヲ爲スカ若シ其雇入ヲ承諾セザル者アルトキハ他ヨリ海員ヲ雇入ルルトキハ之カ爲メモ航海ノ阻害ト爲ルモノニ非サレバナリ

○海員雇入期間ノ制限—第五百八十五條—海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ雇傭ノ期間ニ關スル民法ノ規定ノ例外ナリ民法第六百二十六條ノ規定ニ於テハ雇傭契約ノ當事者カ其契約ニ於テ如何ニ長キ期間ヲ約シタリト雖モ五年ヲ經過シタルトキハ當事者ノ一方ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ルヲ以テ原則ト定メタレトモ海員ノ雇入期間ハ之ニ從ハス一年ヲ超過スルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ約シタルトキハ其期間ハ之ヲ一

年短縮スルモ、爲シタテ、而シテ此規定ヲ精神ニ民法ノ雇傭期間ニ制限ヲ設ケタルト異ナル如ク、其期間ハ長短ノ差異アリ、然レモ、其ノ旨趣ニ於テ蓋シ雇傭期間ニシテ餘リ長キニ失スルトキハ、當事者ノ自由ヲ束縛シ、僱ニ人ノ品位ヲ傷フノミナラス、此ノ如キ束縛ヲ受ケタル者ノ勞務ハ其自由ナル場合ニ爲シ得ル勞務ヨリモ劣等ナルヘク、亦雇主ニ於テモ束縛ヲ受ケテ人ヲ使用スル場合ニ於テハ之ヲシテ充分ナル勞務ヲ爲シムルコトヲ得ス、隨テ經濟上不利益タルヘシ殊ニ船長ト海員トノ關係ハ普通ノ雇傭契約當事者間ノ關係ヨリモ行政法上ノ特別規定船員法ニ依リ一層命令服從ノ關係ニ立ツコト多シ是ヲ以テ其契約ノ最長期間ヲ一年ト爲シタルナリ、故ニ當事者カ一年以上ノ期間ヲ以テ雇傭契約ヲ爲シタルトキハ之ヲ二年ニ短縮セラルルモノトス、然レトモ其期間ノ經過シタルトキ若クハ其以前ト雖モ雇傭契約ヲ更新スルコトハ妨アラザルナリ、但シ此場合ニ於テモ其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ起スルコトヲ得ザルキ言フテ續テタルナリ、而シテ前後ノ契約期間ヲ通算スルコトキハ二年ニ達スルコトアルトモ雇傭契約ヲ更新シタル場合ニ在リテハ當事者ハ束縛ヲ脱シ且ツ經濟ニ關

スル事モ考察シタル上更ニ契約ヲ爲スニ在レハ毫モ其更新ニ付テハ法律上之ヲ禁止スルノ理由ヲ生セザレハナリ、  
 ○雇入期間ノ定ナキトキ海員カ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ル時期ノ第五百八十六條ニ雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非ザレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス、獨逸海員條例第五條ニ「海員ハ其雇止ヲ請求スル時ニ於テハ其雇主ニ對シテ其雇止ノ理由ヲ明カニシテ之ヲ請求スルコトヲ得ル」トモ、  
 雇入期間ノ定アルトキハ其期間ノ經過スルヤ當然契約ハ終了スヘシ、但シ海員カ引續キ其職務ニ服スル場合ニ於テ船長カ知リテ之ニ異議ヲ述ヘザルトキハ民法第六百二十九條ノ適用ヲ受クヘシト雖モ雇入期間ノ定ナキトキハ如何期間ノ定ナキトキハ一年ノ終ニ於テ其契約ハ終了スルヤ論ヲ埃タス、然レトモ一年ニ終ニ至ルマテハ契約ハ繼續スルモノナレハ海員ハ其間ハ何時ニテモ雇止ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ此ノ如キ場合ニハ如何ナル時期ニ雇止ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカハ特約アリテ之ヲ定ムルコト多シ、然レトモ若シ其特約カキトキハ何時ニテモ雇止ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノト爲ストキハ航海ノ中

送ニシテ廢絶スルノ不幸ニ附キルヘケレハ此場合ニ於テハ航海カ全額又ハ  
 部終了シ船舶カ安全ニ碇泊シ且テ荷物カ陸揚及ヒ旅客ノ上陸全ク終了スル後  
 ニ非テレハ雇止ヲ請求スルコトヲ得テハモトメテモリ  
 ○海員雇入契約ノ終了ニ於テハ第五百八十七條ノ海員雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ  
 終了スルコトヲ得ルニシテ  
 一 第一 船舶カ沈没シタルコト  
 二 第二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト  
 三 第三 船舶カ捕獲セラレタルコト  
 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ  
 請求スルコトヲ得商法第八八〇條佛商法第二五八條第二五九條獨逸海員條  
 例第五六條ノ規定ニ依リテ  
 本條ハ一面ニ於テハ海員ノ雇入契約ノ終了ヲ規定シ他ノ一面ニ於テハ航海カ  
 實上不能ナル場合ニ於ケル海員ノ權利ヲ規定シタリ  
 海員雇入契約ハ其契約ノ趣旨ニ因リテ消滅スルハ外尙ホ航海カ絶對シテ不能

爲ラタル場合ニ於テモ消滅スルモノト爲ラサルヘカラス而シテ法律ハ其場合  
 三箇ヲ定メタリ即チ(一)船舶カ沈没シタルトキ(二)船舶カ修繕スルコト能ハサル  
 ニ至リタルトキ(三)船舶カ捕獲セラレタルトキ是ナリ此等ノ場合ニ於テハ船舶  
 ノ航海ノ用ニ供スルコト能ハサルハ言フヲ埃クサレトモ然レトモ尙ホ雇止ノ  
 意思表示ヲ爲ササルニ於テハ契約ハ依然トシテ繼續スヘキカ故ニ此等ノ場合  
 ニ於テハ其意思表示ヲ爲サスシテ當然雇入契約ハ終了スルモノト爲シタリ  
 以上ノ場合ニ於テ雇入契約カ終了スルトキハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料  
 及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ而シテ此等ノ場合ニハ海員ニ  
 尤ムヘキ所ナキコト第五百八十一條第一項第四號及ヒ第五號第五百八十三條  
 ニ依リテ海員カ雇止ヲラレ又ハ雇止ヲ請求スル場合ト同シキカ故ニ之ト同  
 ノ保護ヲ與ヘタルナリ  
 ○海員送還ノ方法 第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スルノ  
 權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得商法第  
 八七八條第二項獨逸海員條例第六六條ノ規定ニ依リテ

海員カ雇入港マテ送還ヲ請求スルコトヲ得ル場合第五八一條第一項第四號第五號第五八二條後段第五八三條第五八七條ニ於テハ船長ハ海員ヲ其船舶ニテ送還スルト其他ノ船舶ニ依ルト又運車ノ便アル場所ナルトキハ之ニ依ルトリ間ハス相當ノ方法ヲ以テ雇入港マテ送還スルモノトス海員カ其送還ヲ受ケル場合ニ於テハ之ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲シタリ此費用ノ中ニハ雇入港ニ至ルマテノ間ニ消費スヘキ食料ノ費用ヲモ包含スルコト勿論ナリ(獨逸海員條例第六五條面シテ其方法ノ選擇ハ船長ニ在リシテ海員ニ在ルカ故ニ海員カ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求シタル場合ニ於テハ船長ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ但シ實際ニ於テ水火夫ノ如キ海員ニ現金ヲ交付スルトキハ直チニ費消シテ歸國スルコトヲ得サルノ處ナシトモ然レトモ是レ行政法ヲ以テ監督スヘキモノニシテ私法ノ關係スヘキ所ニ非サルカ故ニ本法一ハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲シタリ又海員ハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得ルカ故ニ其費用ヲ受領スルモ直チニ歸國セスシテ他船ノ雇入ニ應ズルコトヲ得ヘキナリ)

○海員ノ船舶所有者ニ對スル債權ノ時效 第五百八十九條 第五百七十五條  
 規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス(舊商法第九七六條獨逸商法第九〇六條第九〇八條)  
 ○八條) ○海員カ船舶所有者ニ對シテ有スル債權ハ船長カ船舶所有者ニ對シテ有スル債權ニ同シケレハ法律ハ海員ノ債權ニ對スル時效ニ付テハ船長カ船舶所有者ニ對シテ有スル債權ニ對スル時效ノ規定ヲ準用スルコトト爲シタリ

### 第三章 運送

運送ヲ分ツトキハ二種ト爲ル即チ陸上運送及ヒ水上運送是ナリ其水上運送ヲ細別スルトキハ二種ト爲ル即チ國內水上運送第三三一一條商法施行法第一二二條明治三十二年五月二十六日遞信省令第二十號及ヒ海上運送是ナリ而シテ此陸上運送及ヒ國內水上運送ハ第三編第八章第三三一一條乃至第三五二條ニ規定スル所ニシテ是レ運送ニ關スル一般ノ規定タリ其海上運送モ亦右一般ノ原則ヲ支配ヲ受クベシト雖モ亦特別ノ規定ヲ要スルコト尠ナラサルヲ以テ特ニ海上





生ノ當時ニ於テ債權者ヲ併セテ擔保スルヲ爲メニ一ノ抵當權ヲ設定スルハ其抵當權ハ債權者ノ限度ニ於テ當然無効ト爲リ新債權者ノ限度ニ於テ有義ニ存續スベシ(理由) (B) 當然無効ノ效果 前示ノ要件ヲ具ヘタル債權者ノ行爲ハ(財團ニ對シテ)當然無効タリ(第九九〇條) 債權者ノ行爲ハ債權者及ヒ其相手方間ニ於テ有效ニ存在シ其無効ヲ自己固有ノ利益ノ爲メニ主張スルコトヲ得タルハ當然ナリ然レトモ該行爲ハ特種ノ債權者ヲ利スルモノナルヲ以テ破産債權者自體ノ利益ヲ害ス故ニ此團體ノ機關タル管財人ヲシテ該團體ノ利益ノ爲メニ前示ノ要件ヲ具ヘタル債權者ノ行爲ヲ無効ヲ主張シ破産財團ニ屬スル財產ヲ取戻シ或ハ取立ツルコトヲ得セシム(獨逸破産法第三九條參考)是ヲ以テ前示ノ行爲ニ唯破産債權者團體ニ對シテノ無効タルニ止マレリ(相對的無効) 當然無効トハ不成立ヲ意味ス(佛蘭西商法第四四六條)レキザンズル民著黨國破産法中我商法第九百九十條ニ屬スル獨逸文譯譯法前示ノ行爲ハ破産者ト

ル債權者若クハ相手方ノ意思ノ善惡又ハ成立當時ノ狀況ノ如何ニ拘ラス破産財團ニ對シ其效用ヲ全ウスルコトヲ得ス是ヲ以テ管財人ハ管財人ノ提供シタル無効確認ノ訴ニ基キテ裁判所カ無効ヲ宣言スベキモノタルヲ言フ候タス尙ホ此點ニ關シテハ商法第九百八十五條第二項ノ說明ヲ參考スヘシ佛蘭西商法第四百四十六條ハ(財團ニ關シ無効ニシテ且ツ效力ナシ)ト規定シテ裁判上ノ無効ト解釋シ管財人ハ破産者タル債權者ト前示ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ無効ノ訴ヲ提起シ裁判所ハ單ニ行爲ノ性質即チ佛蘭西商法第四百四十六條ニ規定シタル行爲ニ屬スルヤ及ヒ其成立期即チ嫌疑時代中ニ成立シタルヤヲ調査シ無効ヲ宣言セザルヘカラサル旨ヲ意味スト云フニ似タリ獨逸破産法及ヒ舊西破産法第二八五條以下等ハ當然無効ト規定セシメテ取消スコトヲ得ルハ前示ト規定シタル立法上廣能訴權ノ變體ト爲スヲ正當ト認ムルヲ以テ獨逸破産法ノ立法例ヲ正當利聽ニ意義) 前示ノ要件ヲ具ヘタル行爲ハ財團ニ對シ當然無効ナリ又以テ獨逸破産債權者



團體ノ爲メニ法律上不成立ナルヲ以テ其效果トシテ破産債權者團體ニ對シテ不利益ナル結果ヲ除去シ之ヲシテ此等ノ行爲ナカリシト同一ノ地位ニ在ラシム是ヲ以テ無償行爲若クハ之ト同視スヘキ有償行爲ニ依リ財團ニ屬スル財產ヲ取得シタル者ハ意思ノ善惡ニ拘ラス現物ヲ以テ或ハ現物ナキトモ其價額ニ相應スル金錢ヲ以テ之ヲ返還スヘキ廢除訴權ノ擴張トシテ無償行爲ヲ取消ヲ認メタル獨逸派ノ立法ニ依リハ財產取得カ善意ナルトモ不當利得ノ原則ニ基キ行爲ノ取消權行使ノ時ニ於ケル利得ヲ賠償スヘキモノト爲シ惡意ナルトキハ其取得シタル全財產ヲ返還スヘキモノト爲シ(獨逸破産法第三七條第二項)西破産法第二九一條第三項)匈牙利破産法第三三條第一項)トモ我商法ハ當然無効ト爲シタルヲ以テ取得者ノ意思ノ善意ヲ問ハズ取得財產全部ヲ破産財團ニ返還セザルコトト爲ル(無償行爲ノ目的物ヲ返還スルニ當リ取得者カ自己ノ過失ニ基カサル價額ノ減少ニ付キ責ヲ負フコトナク又破産債權者團體ハ不當利得ヲ許ササルノ原則ノ適用トシテ返還義務者ニ保存費及有益費ノ賠償スヘク其他返還義務者カ其返還ノ目的物ヲ第三者人爲ニ差押ヘラレ

タル場合ニ於テハ當然無効ノ結果トシテ第三者カ他人ノ物件ヲ差押ヘタルコトト爲リ又返還義務者カ破産ヲ宣告テ受ケタル破産債權者團體カ別離請求權取戻權者トシテ現物ヲ返還セシメ現物ノ存セザル場合ニ破産債權者トシテ相當價額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(獨逸破産法第三三條)又西破産法永小作權地役權等ノ如キ無償ニテ設定シタル他物權ノ目的物ハ自由ナル破産者ノ財產權トシテ之ヲ破産の差押ニ供スルコトヲ得ヘク無償ニテ抽戻シタル權利ハ尙ホ破産財團ノ一部ト爲スヘク無償の義務負擔ヲ消滅シタルモノトシテ之ヲ取扱フヘク破産者カ免除シタル債務關係ハ復活シテ其債權カ破産財團ノ一部ト爲リ債務者ハ其義務ヲ履行スヘク新ニ供シタル擔保ノ目的物ハ其擔保ニ關係ナク破産財團ノ一部トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ(效果ハ内容)前示ノ要件ヲ具備シタル行爲ノ當然無効ハ破産者タル債務者及ヒ其相手方ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得ルハ言フ埃タヌト雖モ其相手方ノ特別承繼人ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題相續人ノ如キ一般承繼人ハ縱令善意ナリト雖モ前主ト同一ノ權利及ヒ義務ヲ有スルヲ以テ當然ノ無効ヲ對抗

セラルルヤ疑ナシト云フ解スルニ難ク特種ノ廢罷訴權タル觀念ヲ其法ノ根據ト爲ス獨逸派ノ見解ニ依リ第一取得者タル相手方ニ對シ取消權ヲ主張スルコトヲ得破産者カ行爲ノ當時ニ破産債權者團體ヲ害スルノ意思ノ有ル且特別承繼人カ斯ル意思ノ存在ヲ認識シタル場合即チ惡意ナル場合ニ限リテ行爲ノ取消ヲ對抗スルコトヲ得ルニ似タリ蓋シ相手方カ詐害ノ目的ヲ以テ更ニ目的物ヲ他人ニ讓渡シ破産債權者ノ權利ヲ無益ト爲スノ害毒ヲ防止スルカ爲メニスルモノナラン善意ノ特別承繼人ニ對シテハ取消權ヲ主張スルコトヲ許サズ是レ取引ノ安全ヲ保ツノ法意ニ外ナラス而シテ前主カ善意ナル以上ハ其特別承繼人カ惡意ナルモ之ニ取消權ノ對抗ヲ許サズ何トナレハ善意ノ取得者ハ其目的物ヲ完全ニ處分スルノ權利ヲ有セザルヘカラス然ルニ特定ノ人即チ惡意ノ第三者ニ對シテハ廢罷訴權ヲ受テヘキ危險ノ下ニ於ケルニアラスンハ處分スルコトヲ得スト云フハ完全ニ處分スルノ權利ナキ旨ヲ意味シ取引ノ安全ヲ害スルヤ當然ナレハナシ(獨逸破産法第四〇條)何牙利破産法第三五條(獨逸破産法第二〇九條)等機關西派ノ見解ニ依リハ當然無効ニ特定承繼人

ニ對シ意思ノ善惡ニ拘ラズ主張スルコトヲ得セシメタリ其理由ハ(一)何人ハ雖モ自己ノ有スル權利以外ノモノヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ザル原則ヲ適用シ(二)他人ニ爲ス讓渡カ行爲ヲ無効ト爲スノ效用ヲ妨ケ破産債權者ニ損害ヲ及ボストニ在ルモノノ如シ我破産法ノ解釋トシテ特別ノ明文ナキヲ以テ民法第四百二十四條ニ依リ惡意ノ特別承繼人ニ對シ行爲ヲ取消ヲ主張スルコトヲ得ヘシ當然無効ヲ對抗スルコトヲ得ヘシ蓋シ此承繼人亦相手方ノ行爲ニ因リテ受益者若クハ轉得者タルヲ以テナリ(三)當然無効ナルヲ以テ第一位ノ抵當第二位ノ抵當ト云フカ如ク新ニ供シタル擔保ハ當然無効ナルヲ以テ第一位ノ抵當第二位ノ抵當ト云フカ如ク新ニ供シタル擔保ハ當然無効ナルヲ以テ第一位ノ抵當第二位ノ抵當トシテ當然無効ト爲リ第二位ノ抵當ハ債權ノ成立ト同時ニ供セザレバ擔保トシテ有效ナル場合ニ於テ第一位抵當權者ト第二位抵當權者ト及ヒ破産債權者トノ相互關係ハ如何トシ問題亦頗ル解スルニ難シ第一說ハ管財人ノ申立ニ因リ第一位ノ抵當權ノ當然無効ナルコトヲ確定シタルトキハ總テ人ニ對シテ效力ヲ生シ其經營權ハ不成立ト爲リテ登記亦抹消シタル面シテ其無効ハ破

產債權者團體ノ利益ニ正當ニ第二位ノ抵當權者ヲ利セズ又害セズ是レ該無  
 效ノ破産債權者團體ノ利益ヲ保護スルコトヲ目的トスルニ止リシハナリ故  
 例ハハ抵當ノ目的物タル不動産ノ千六百圓ニ賣却セラレ(1)第一位抵當權者及  
 七第二位抵當權者各金八百圓ノ債權ヲ擔保セラルト假定セシ賣得金ノ一半  
 八第二位抵當權者ニ歸シ他ノ一半ハ破産債權者ヲ利ス(2)第一位抵當權者ハ千  
 六百圓第二位抵當權者ハ千二百圓ノ債權ヲ擔保セラルト假定セシ賣得金千  
 六百圓中千二百圓ハ第二位抵當權者ニ歸シ殘額四百圓ノミカ破産債權者ヲ利  
 シ破産財團ニ歸ス(3)第一位抵當權者及ヒ第二位抵當權者各千六百圓ノ債權ヲ  
 擔保セラルト假定セシ第二位抵當權者ノミカ賣得金全部ヲ受取り破産債權  
 者ハ毫モ利益スル所ナシ此說ハ簡明ニ相互ノ關係ヲ説明スト雖モ當然無効ノ  
 法意ニ適セヌ何トナレハ前ニ例示シタルカ如ク目的物ノ賣得金カ抵當ヲ以テ  
 擔保シタル二者ノ債權全額ヨリ少額ナルトキハ當然無効ノ第二位抵當權者ニ  
 利益ヲ與ヘ破産財團ニ利ナク殊ニ第二位抵當權者ハ第一位抵當權者ノ無効ナル  
 コトカ自己ニ利益アルモ之ヲ主張スルコトヲ得ス管財人ハ之ヲ主張スルコト

ヲ得ルモ破産財團ニ歸シテ以テ之ヲ主張セザルヲ苛責シ宜スルヲ以テテナリ  
 第二說ハ管財人ハ破産債權者團體ノ爲メニ無効確認ヲ請求ヲ爲スコトヲ得ル  
 トモ順位ニ付キ自ラ干渉スルノ權利ナク又第二位抵當權者ハ第二位抵當權者ノ  
 無効ヲ主張スルノ權利ナキ故ニ第二位抵當權者ニ歸スルニ部分ハ財團ニ歸  
 ス故ニ前例ニ於テハ(1)破産財團ニ當然無効タル第二位抵當權者ノ取得部分ハ  
 八百圓ヲ取得シ(2)賣却代金タル千六百圓ヲ取得シ第二位抵當權者ハ有效ノ  
 抵當ヲ有スルニモ拘ラヌ賣得金ヨリ何等ノ配當ヲ受ケズ(3)モ(4)ト同ニノ結果  
 ノ生ズ此說ハ當然無効ナル抵當權ニ付キ破産債權者ノ利益ノ爲メニ其效方ヲ  
 認ムル矛盾ノ論結ト爲ルヲ以テ得テ失當ナリ第三說ハ行ニ供シタル擔保ヲ當  
 然無効ト爲テ理由ハ畢竟無効ナルハ擔保ヨリ生ズル損害ニ對シ破産債權者  
 ノ保護スルニ在ルヲ以テ損害ヲ生ズルハ不生シタル損害ノ程度ニ於テハ  
 無効トシ故ニ有效ナル第二位抵當權者ハ第一位抵當權者ノ無効ヲササシ場合  
 ト同ニ地位ニ在ラザルニシテ隨テ破産債權者ノ實利益ノ爲メニ有效ナル第  
 二位抵當者ノ存在ヲ無視スルヲ得ズ故ニ前例ニ於テハ(1)賣得金千六百圓ノ一半

ハ第二位抵當權者ノ爲メニ十分ニ效力ヲ生シテ之ニ歸シ他ノ一半ハ第一位抵當權者ニ歸スヘキモ破産債權者ノ利益ノ爲メニ無効ト爲リ破産財團ニ歸ス何トナレハ第一位抵當ノ實行ニ因リ生スル破産債權者ニ對スル損害ハ此半額ナレハナリ(2)第一位抵當ハ第二位抵當ニ對シ有效ナルカ故ニ第二位抵當權者ハ毫モ利益ヲ受クスシテ第一位抵當權者カ第二位抵當權者ニ優先シテ賣得金額ヲ受クヘキモノナレトモ第二位抵當權者ノ債權額千二百圓ト第一位抵當權者ノ債權額千六百圓トノ差額四百圓ハ第二位抵當ノミカ存スル場合ニハ破産債權者ノ爲メニ破産財團ニ屬スヘキモノナルヲ以テ無効タル第一位抵當權者ノ抵當權實行トシテ權利アルモノニアラザルカ故ニ財團ニ歸スヘキヤ當然ナリ(3)第一位抵當權者ハ債權額千六百圓ノ爲メニ賣却金千六百圓ヲ領シ第二位抵當權者ハ毫モ領スル所ナレトナレハ第二位抵當權者ハ第一位抵當ノ無効ヲ主張スルノ權利ナク又破産債權者ハ破産財團ニ對シテ對抗スルコトヲ得ヘキ有效ナル第二位抵當カ存在スルト同一地位ニ在ルヲ以テナリ此第三説ハ破産財團ニ對シテノミ當然無効即チ相對的無効ノ性質ニ通スルモノトシテ多數學

者ノ是認スル所ニシテ又余輩ノ贊成スル所ナリ(4)取消スコトヲ得ヘキ行爲ニシテ債權者ノ權利行爲及ヒ日附ノ如何ヲ問ハス債權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタル權利行爲是ナリ權利行爲ナル法語ハ千八百八十五年普國破産法及ヒ同年普國破産法施行法ニ於テ始メテ用ヒタルモノニシテ佛國ノ立法ニ於テ用ヒラレタル法語ノ行爲ノ翻譯ナルコトハ獨逸法學者ノ是認スル所ニシテ幾ニ略述シタルカ如ク法律行爲ト同義ニアラザルナリ權利行爲ハ法律行爲及ヒ法律上ノ行爲ヲ總稱スル法律の動作タリ法律行爲ハ法律上ノ效力ヲ成立セシムル法律の動作ニシテ法律上ノ行爲ハ自然の效果ニ因リ法律上ノ效力カ顯ハルル法律の動作ナリ法律上ノ效力ヲ惹起スコトヲ欲シ且ツ該效力ヲ生スルニ足ル人ノ意思表示カ法律行爲ニシテ行爲者ノ意思如何ニ拘ラス法律上特定期間カ始付テラレタル行爲カ法律上ノ行爲ナリ故ニ權利ノ設定拋棄等ノ行爲ハ法律行爲ニ屬シ時効ニ因リ財產ノ取得拾得ニ因リ遺失物所

有權取償附會加工等無礙於所有權ノ取得ハ法律上ノ行爲ニ非ズ斷行爲非終  
 破産債權者團體ニ不利無キハ效果ヲ生ズルニ非ズ破産者ノ爲メタル新設行爲亦能  
 リ破産宣告以前ニ於テ破産者ト第三者トノ間ニ繼續シテ訴訟ヲ甚宣告ニテ  
 ニ未タ終局セザルトキハ管財人カ之ヲ受理シ具テ續行スルコトハ前述如ク  
 所ナリ斯ル場合ニ於テ管財人ハ破産者カ其宣告ニテニ於テ爲ル所カ破産債權  
 者團體ニ不利無キハ結果ヲ生ズルニ非ズ行爲ヲ致難シ且口無効ト爲サシハ口ト  
 ヲ得不行爲亦茲ニ所謂權利行爲ニ屬スルコトアリ不行爲者カ故意ニ非ズ且  
 不行爲カ勞務ノ不行爲ニテスルシテ却テ勞力ヲ要セザル法律上ノ行爲ノ不行  
 爲カルコトキハ該行爲カ權利行爲ト爲ル相續ノ承認ヲ爲ササルコト贈與ヲ受テ  
 サルコト手形上ノ權利ヲ保全スルカ爲メニ必要ナル行爲ヲ爲ササルコト贈與ヲ受テ  
 絶證書ヲ作成セザルコトノ如キ等ノ如キ是ナリ蓋シ債務者ハ勞務ヲ因テ財  
 産ヲ取得スルニ義務ヲ負フ者ニアラズ贈與ヲ受テ相續ヲ承認スルカ如キハ債  
 務者ノ自由ニ屬スル所ナルヲ以テ之ヲ受ク又ハ承認スルノ義務ナシ然レトモ  
 債權者ハ債權者ヲ害セ且贈與ノ受領相續ノ承認等ニ因リテ債權者ニ供セラ

ルヘキ満足專有ノ方法ヲ奪フノ意思ヲ以テ贈與ノ受領相續ノ承認者カハ權利  
 ノ保全行爲ヲ爲サズルニ義務ヲ負フヲ以テナリ左ニ此取消法ニテ得ヘキ  
 行爲ノ種類ヲ分説スヘキニテハ  
 (A) 支拂停止以後破産宣告以前ニ於テ成立シタル行爲ハ支拂ノ停止後破産宣  
 告前ニ於テ債務者カ破産財團ノ損害ニ於テ爲シ其相手方カ支拂停止ヲ知リテ  
 成立シタル特定ノ行爲ハ管財人カ破産債權者團體ノ爲メニ之ヲ取消スコトヲ  
 得第九九一條第一項稱逸破産法第三〇條佛蘭西商法第四七條  
 (a) 要件 取消スコトヲ得ル行爲タルニハ第一ニ相手方カ債務者ノ支拂停止  
 ヲ知リタルコトヲ要ス(稱逸破産法ハ尙ホ破産ノ手續開始ノ申立ヲ知リタルコ  
 トヲモ支拂停止ヲ知リタルコトト同視セタリ蓋シ斯ル場合ニ於テ之ニ相手方  
 カ破産者ト共ニ破産債權者ニ對シテノ不法行爲ヲ爲シタルモノト謂フヲ得レ  
 ハナリ債務者ノ支拂ノ停止ヲ知リタル相手方ハ其破産者ト爲ルヘキ債務者ノ  
 財産ニ付テ破産手續ニ從ヒテ破産債權者ト爲ルヘキ債權者カ何等の満足ヲ受  
 クヘキ權利ヲ有スルコトヲ知リタルモノト謂ハサルハ尙ホ之ヲ破産者ト爲

ルヘキ債務者ト取引ヲ爲シ破産債權者ト破産財團トノ關係ニ變更ヲ生セシメ  
 ナルカ爲メニ即チ破産債權者ノ爲メニ破産者ノ財産ノ地位ヲ不良ナラシメザ  
 ルカ爲メニ債務者ヨリ破産債權タルヘキ債權ニ付キ支拂ヲ受ケ或ハ之ト取引  
 ヲ爲スコトヲ徳義上避クヘキニモ拘ラス破産宣告以前タルコトヲ奇貨トシ支  
 拂ヲ受ケ其他取引ヲ爲スカ如キハ破産債權者ト爲ルヘキ者ニ對シテ一ノ不法  
 行爲ヲ爲セタルモノト謂フヘシ是ヲ以テ法律ハ破産債權者ノ爲メニ斯ル行爲  
 ノ取消ヲ許シタリ但シ相手方カ相當ノ賠償ヲ爲スニ於テハ縱令事實上惡意テ  
 リト雖モ善意取引者トシテ取扱フニ妨ナシ蓋シ法律ハ破産債權者ノ利益ノ爲  
 メニ取消ヲ許スニ外ナラザレハナリ  
 法律ハ相手方カ債務者ノ支拂停止ヲ知リタルコトヲ以テ足レリトシ詐害ノ意  
 思アルコト及ヒ債務者ノ責力カ不十分ナル事情ヲ知リタルコトハ之ヲ問ハザ  
 ルナリ蓋シ支拂停止ヲ知リタルコトノミヲ以テ破産ノ宣告ヲ豫知シタルモノ  
 ト爲スヘケレハナリ相手方カ債務者ト取引ヲ爲スニ際シ其支拂停止ヲ知ラザ  
 リシトキハ其取引ノ取消ヲ許サス蓋シ斯ル場合ニ於テハ不法行爲アリタルハ

ノト認ムルコト能ハサルノミオラス善意取引ノ安全ヲ害スレハナリ  
 相手方カ債務者ノ支拂停止ヲ知リタルヤ否ヤハ事實問題トシテ裁判官ノ判斷  
 スル所ナリ故ニ争ヒアル場合ニ於テハ管財人カ之ヲ立證セサルヘカラス  
 第二ニ支拂停止後破産宣告前ニ於テ爲シタルモノナルコトヲ要ス是レ相手方  
 カ債務者ノ支拂停止ヲ知リタルコトヲ要スルヨリ生スル當然ノ結果ナリ相手  
 方ハ債務者ノ支拂停止以前ニ於テ其支拂停止ヲ知ルヘキノ理ナク又破産宣告  
 以後ニ於テハ債務者カ其財産ノ管理及ヒ處分權ヲ喪失スル結果トシテ其以後  
 ニ於ケル破産者ノ總テノ行爲ノ當然無効タルコトハ前述シタル所ナリ隨テ破  
 産宣告以後ニ於ケル破産者ノ行爲ニ付キ取消ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題  
 ヲ生セス  
 第三ニ財團ノ損害ニ於テ爲シタルモノナルコトヲ要ス破産者タル債務者ト其  
 支拂停止ヲ知ラサル相手方トノ間ニ於ケル行爲ニ因リテ破産債權者カ破産手  
 續ニ依レル辨濟ニ多少ノ減少ヲ受クルコトヲ要ス蓋シ債務者ノ行爲カ破産財  
 團ヲ減少セス若クハ減少スルノ虞ナク爲メニ破産財團ニ對スル破産債權者ノ

地位ヲ不利益的ニ變更スルコトヲキニシテ拘テモ債務者ノ行為ノ取消ヲ許スハ破産債權者ヲ破産財團ニ付キ受テハ半損害ヲ防止スルヲ目的トスル取消ノ法意ニ反スルヲ以テナリ隨テ破産債權者カ破産財團ニ付キ受テハ半損害ノ程度ヲ變更スル行為ハ之ヲ取消スルコトヲ許サズ斯ル行為ハ債務者ノ未タ其財産ノ管理及ヒ處分權ヲ喪失セザル當時ニ於テ成立シタルモノナルヲ以テ破産債權者自體ヲ害セザル範圍内ニ於テ有效ニ存在ス

債務者ノ行為カ直接ニ財團ヲ害スルモノタルヲ以テ取消スニ足ルガ故ニ債務者カ其行為ノ結果トシテ直接ニ破産財團上ニ損害ヲ生スヘキコトヲ豫知スルト否トハ法律ノ間フ所ニテ蓋シ蓋シ所謂取消ハ相手方ノ德義違背ニ其源ヲ汲ミ相手方ノ支拂停止ヲ知ルノモテ以テ足レザド爲シタレハナリ又債務者ノ行為自體カ直接ニ財團ヲ害スルモノヲ却テ行為ノ結果トシテ財團ニ歸シタル財産賣得物ノ類ヲ偶然ニ事變ニ基ク形體ノ損傷或ハ價額ノ減少等ニ因リ間接ニ損害ヲ生シタルモノナルトキハ取消ノ原因ト爲ルニキモナリナレトナレハ斯ル間接ノ損害ハ法理上相手方ノ負擔ニ歸シ得ヘキモノニアラザル

ノミナラス行為自體カ直接ニ破産債權者ニ損害ヲ被ラシムルニアラスハ嫌疑の行為ノ存在ヲ想像スルコトヲ得ス即チ破産者カ相手方ト共ニ破産債權者ノ財團上ニ有スル共同満足ヲ受クル權利ヲ害スルモノト謂フヲ得ザレハナ

第四ニ取消スコトヲ得ヘキ行為ニハ其相手方ニ於テ詐害の行為ノ要素アルコトヲ要ス通常ノ詐害行為ニ於テハ債務者ノ行為及ヒ其相手方タル第三者ノ共力ヲ要スレトモ玆ニ所謂取消スコトヲ得ヘキ行為ニハ唯相手方ニ於テ破産債權者ヲ害セザル德義ニ反スルノ動作アルヲ以テ足レリトス蓋シ商法第九百九十一條第一項ハ相手方ノ悖德ヲ遂ケシメタルヲ目的トスレハナリ法律ハ此行為ノ種類ヲ概括的ニ前條ニ掲ケタルモノノ外債務者カ爲シタル總テノ支拂及ヒ權利行為(第九百九十一條第一項)ト規定シタリ故ニ消極的ニ之ヲ言ハハ商法第九百九十條及ヒ第九百九十二條ノ規定ニ包含セラレザル權利行為ニシテ積極的ニ之ヲ言ハハ期限ニ至リタル債務ノ支拂及ヒ無償行為ト同視スヘカラサル有償行為ナリ(破産宣告以前ニ於テ債務者カ爲シタル辨濟期ニ至リタル支拂任

意の支拂及ヒ強制的支拂即チ債權者カ強制執行ノ實施ニ依リテ受ケタル支拂  
 ハ縱令支拂停止以後ニ屬スト雖モ處分無能力者ニアラザル債務者ノ適法ノ行為  
 ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナシ故ニ羅馬法佛蘭西民法及ヒ我民法法第四二  
 四條佛蘭西民法第八〇八條第八〇九條ハ廢罷訴權ノ適用トシテ之カ取消ヲ許  
 ナス然レトモ斯ル法則ヲ絕對的ニ破産關係ニ適用セハ債務者ハ其未タ處分能  
 力ヲ喪失セザルヲ奇貨トシ辨濟期ニ至リタル數多ノ債務中或債權者ニ好意的  
 ニ他ノ債權者ノ損害ニ於テ支拂ヲ爲シ又債務者ト最モ近接シタル地ニ住居シ  
 最モ督促ヲ爲シタル債權者カ他ノ債權者ノ損害ニ於テ支拂ヲ受ケ破産法ノ大  
 原則タル債權者ノ平等關係ヲ亂スニ至ル是ニ於テカ法律ハ斯ル支拂ノ取消ヲ  
 許シ債權者間ノ平等ヲ維持スルコトヲ欲セタリ支拂ヲ停止シタル債務者ト其  
 同債務ヲ負ヒタル者カ爲シタル辨濟期ニ至リタル債務ノ支拂ハ取消スコトヲ  
 得ス蓋シ此種ノ債務者ハ縱令其共同債務者ノ支拂ヲ停止シタル事實ヲ知リタ  
 ルト雖モ素ト是レ盡スヘキ義務ヲ履行シタルモノニシテ之カ爲スニ毫モ破産  
 財團上ニ損害ヲ生スルコトナケレハナリ

債務ノ支拂アル以上ハ其債務發生ノ原因カ法律行為タルト不法行為タルト又  
 不當利得タルトヲ問ハス之カ取消ヲ許スヲ原則トス唯法律ハ手形ノ支拂ニ關  
 シノ例外ヲ設ケタリ手形所持人カ破産者ト爲ルヘキ手形ノ支拂義務者振出  
 人裏書人引受人支拂人ヨリ其支拂停止ヲ知リテ受ケタル手形ノ支拂ハ手形所  
 持人カ他ノ手形義務者ニ對スル手形上ノ權利ヲ喪失スルニアラスンハ手形ノ  
 支拂停止ヲ知リタル事實ニ因リテ其受ケタル支拂ヲ取消スコトヲ許スハ手形  
 ノ所持人ヲ對待スト謂フヘケレハナリ是ヲ以テ手形所持人カ償還ヲ請求スル  
 コトヲ得ヘキ前者振出人裏書人アル場合ニ於テ拒絶證書ヲ作成セザル以上ハ  
 前者ニ償還ヲ請求スルコトヲ得ス且ツ手形ノ支拂義務者カ支拂ヲ提供シタル  
 トキハ拒絶證書ヲ作成スルコトヲ得サルカ故ニ手形所持人ハ前者ニ對スル償  
 還請求ヲ喪失スルコトナクシテ手形ノ支拂ヲ拒絶スルコト能ハサルヘシ隨テ  
 斯ル場合ニ於ケル支拂ノ取消ヲ許ナス(商法第四八七條)獨逸手形法第四一條  
 太利破産法第八條匈牙利法破産法第三〇條佛蘭西多數ノ判斷)拒絶證書ノ作  
 成ノ免除アル場合ニ於テ亦償還請求權ノ喪失ヲクシテ提供セラレタル支拂ノ



受領ヲ拒絶スルコト能ハサルハ之ヲ獨逸手形法第四二條然レトモ拒絶證書作成後受ケタル支拂若クハ其作成期間經過後受ケタル支拂ノ原則ノ支配スル所ト爲リ之ヲ取消スコトヲ得尚法第四八七條獨逸手形法第四一條第二項蓋シ前者ノ場合ニ於テハ已ニ償還請求カ保全セラレ又後者ノ場合ニ於テハ已ニ償還請求カ喪失セラレタルヲ以テ償還請求ノ喪失ニ關係ナク提供セラレタル手形ノ受領ヲ拒ハコトヲ得レハナリ(第九一一條第二項引用獨逸破産法第三四條佛蘭西商法第四四九條白耳義商法第四四九條伊太利商法第七一二條千八百八十四年三月十六日奧太利破産法第八條匈牙利破産法第三〇條) 廉價ノ賣却ノ不利ノ借金及ヒ不利ノ和解等ノ如キ無償行爲ト同視スヘカラサル有償行爲ニシテ破産財團ヲ害スルモノハ之ヲ取消スコトヲ得分割ハ賣買若クハ交換ノ性質ヲ有スル有償行爲ト論結セテ取消スコトヲ得ルハ言フ俟タズ然レトモ余輩ハ分割ヲ以テ共有者ノ權利行使ニ關スル制限ヲ免脱スル清算行爲ト認ムルハ故ニ反對ニ論結ス

(b) 取消ノ效果 破産手續中ニ破産者ノ行爲ヲ取消權ハ破産債權者團體ニ屬

シ其機關タル管財人カ該權利ヲ行使ス故ニ(1)各破産債權者ハ自己ノ爲メニモ又破産債權者團體ノ爲メニモ取消權ヲ行使スルコトヲ得管財人カ取消權ヲ行使セザル場合ト雖モ亦然リ(2)破産者ハ取消權ノ行使ニ付キ管財人ヨリ代表セラルザルヲ以テ取消訴訟ノ證人トシテ訊問セラルルコトナリ又破産手續ノ終局以後管財人ニ代リテ取消訴訟ヲ受繼スルコトナシ(3)管財人ハ取消權ヲ處分スルコトヲ得蓋シ取消權ハ破産債權者ノ關スル權利ノ附屬物ニシテ管財人ハ該權ヲ處分スルコトヲ得ナレハナリ取消シ其之ヲ爲スヘキ行爲ヲ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス(民法第一二二條獨逸民法第一四三條該意思表示ノ方式ニ關シテハ法律上特別ノ規定ナキヲ以テ裁判外ニ於テ表示スルコトヲ得又裁判上即チ訴若クハ抗辯ニ於テ表示スルコトヲ得該意思表示ハ其相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス(民法第九七條獨逸民法第一三〇條乃至第一三二條又取消ノ相手方トハ取消ヲルヘキ行爲ニ因リテ破産財團ヲ害スルニ至ルル者權利ヲ取得シタル者及ヒ其承繼人ナリ取消權ハ對人的權利ニシテ對物的權利ニアラズ故ニ取得者カ爾後取消權ヲ目的物ニ他入ニ漸次ニ讓渡

シタル場合ニ於テ取消権ノ第二若クハ第三取得者等ニ對シ效力ヲ及ホスコト  
 得タルヲ當然トス唯例外トシテ承繼人カ取消権ヲ對抗セラルヘキ相手方  
 一般承繼人ナル場合又ハ其特定承繼人ニシテ其權利取得ノ際ニ破産者タル  
 キ債務者カ破産債權者團體ヲ害スル意思ヲ以テ權利行爲ヲ爲シタルコトヲ知  
 リタル場合ニ於テ取消権ノ效力ヲ及ホスキモシタリ蓋シスル場合ニ於テ承繼人  
 ニ對シ取消権ノ效力ヲ及ホスヘキ正當ノ理由アルヲ以テナリ隨テ取消権ヲ對  
 抗セラルルコトナキ承繼人ノ權利ヲ承繼シタル者ハ縱令前示ノ如キ破産者ノ  
 意思ノ存在ヲ知リタル場合ト雖モ取消権ノ相手方ト爲ラス取消権ヲ對抗セラ  
 レタル承繼人ハ完全ニ其承繼シタル權利ヲ處分スルコトヲ得タルヘカラス破産  
 者カ其初メ債權者ヲ害スル意思ヲ以テ權利行爲ヲ爲シタル旨ヲ知レル者ニ對シ  
 テハ取消ノ危険負擔ヲ以テスルニアラスシテ讓渡スコトヲ得スト云フハ此處分  
 ヲ妨タルモノナレハナリ取消権ノ相手方取消ノ請求即チ取消スコトヲ得キ  
 行爲ニ因リテ移轉シタル物ノ返還ヲ目的トスル請求ハ裁判上及ヒ裁判外  
 ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得訴事情ニ從ヒテ確認訴訟抗辯取消スコトヲ得ハ

キ行爲ヨリ生スル請求ニ對スル(若クハ相手方ノ破産ニ於ケル届出ニ依レバ取  
 消ノ請求ノ主張ハ即チ裁判上ノ主張タリ破産手續ノ終局ニ依リ破産債權者團  
 體團體ノ消滅ヲ來スヲ以テ該團體ノ爲メニ存スル取消権ノ消滅ヲ來シ之ト同  
 時ニ各債權者カ民法ノ規定ニ從ヒテ取消ヲ請求スルコトヲ得民法第四二四條)  
 ルニ至ルヤ當然ナリ而シテ破産手續終局ノ當時未タ管財人ト相手方トノ間ニ  
 關係シタル取消請求ノ訴訟カ終局セサルトキハ破産手續終局ノ方法ニ從ヒテ  
 該訴訟ノ運命ヲ論定セラルヲ得ス破産手續カ配當ニ依リテ終局シタルトキハ管  
 財人カ該訴訟ヲ續行スルノ權限ヲ有ス何トナレハ該訴訟ハ破産財團ニ屬スル  
 財産ノ返還ヲ目的トシ且ツ該財産ハ破産債權者ニ附後配當スヘキモノナレハ  
 ナリ之ヲ換言セハ該訴訟ノ未タ終局セザル間ハ適法ナル終局配當ナルモノナ  
 ケレハナリ破産手續カ協議契約ニ依リテ終局シタルトキハ取消訴訟ハ其目的  
 ノ滅盡ニ因リテ消滅ス蓋シ破産債權者團體ノ有スル取消ノ請求カ消滅スル  
 事ナラス取消ノ請求ハ債權ト分離スルコト能ハサルヲ以テ破産者カ之ヲ承繼  
 スルニ由ナケレハナリ然レトモ訴訟費用ニ關シテハ訴訟カ相手方ト協議契約

五依テ破産財團ノ返還ヲ受ケル破産者當時人トシテ之ヲ支拂ハルルモ、何トナレハ此訴訟費用ハ破産財團ノ費用トシテ之ヨリ支拂ハルルモ、レハナリ其他時効ニ依テ取消權ノ消滅ヲ來スヘシ民法第一六七條第一項獨逸破産法第四一條參考取消權ノ主張及ヒ消滅取消ノ取消權ヲ行使シテ權利行爲ヲ無効トシ若クハ相殺的ニ無効ト爲スモノニアラスシテ却テ相手方ニ破産者カ財團ノ損害ニ於テ爲ラタル給付ヲ財團ニ返還スルノ義務ヲ負ハシメ蓋シ破産債權者ノ權力ハ斯ル方法ニ於テ保護スルコトヲ得レハナリ是ヲ以テ返還ノ請求ハ一ノ債權ニシテ物權的請求モアラス又破産者ト其相手方トノ間ニ於ケル法律關係ハ取消ニ依リテ毫モ影響ヲ受ケス却テ返還ハ斯ル法律關係ニ付キ效力ヲ生スト謂ハサルヘカラス其他取消ハ毫モ物權的效力ヲ有セザルヲ以テ民事訴訟法第二十二條ノ適用ナク又取消ハ契約ノ取消ヲ目的トスルモノニアラズルヲ以テ民事訴訟法第十八條ノ適用ナシ此ノ如ク取消ノ目的ハ破産財團ヨリ脱却シタル財產ノ返還ヲ目的トスルヲ以テ甲支拂期ニ至リタル債務ノ支拂ヲ(支拂ハ金錢債務ノ辨濟ヲ意味スト雖モ總テハ債務ノ辨濟ト同義ニ使用セラル

ルコトアリ商法第九百九十一條ニ所謂支拂亦總テハ債務ノ辨濟ノ意味ニ於テ使用セラレタルモノナルヘシ蓋シ支拂ト其他辨濟トノ嚴格ナル區別ハ近世ノ法學ニ於テ重セラレタルニ過キナレハナリ取消サレタルトキハ辨濟ノ受領者ハ其支拂ノ目的物ヲ管財人ニ引渡シ若クハ給付セザルヘカラス相手方ハ支拂ノ目的物カ特定物ナルトキハ之ヲ管財人ニ引渡シ而シテ該目的物カ不動產ナルトキハ管財人ヲシテ強制賣却ヲ容易ナラシムルカ爲メニ破産者ノ所有名義ノ登記ヲ變更スヘキコトヲ其力セザルヘカラス(相手方カ其返還スヘキ特定物ニ付キ施シタル保存費及ヒ有益費ノ償還取得シタル果實ノ返還目的物ノ毀損及ヒ滅失等ニ基テ損害賠償等ハ民法第九十條第九十一條第九十六條等ノ規定ニ依リ支拂ノ目的物カ代替物ナルトキハ同種及ヒ同量ノ物件ヲ管財人ニ給付セザルヘカラス然レトモ門外トシテ手形ノ支拂ニ關シテハ之ヲ取消ヤス隨テ所持人ヲシテ其受取リタル手形金ヲ破産財團ニ返還セシムルコトナキハ前述シタル所ナリ然レトモ之カ爲メニ管財人ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得スト遮斷スヘカラス管財人ハ特定ノ

要件ノ下ニ於テ支拂金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得特定ノ人即チ爲替手形ノ振出人及ヒ振出委託者約束手形ノ第一ノ裏書讓渡人カ特定ノ要件即チ振出ノ際(爲替手形ノ振出人振出シタル際)爲替手形ノ振出委託者又ハ裏書讓渡ノ際(約束手形ノ第一裏書讓渡人)手形ノ支拂義務者ノ支拂停止ヲ知ルニ於テハ斯ル際以後ハ手形カ自由ニ流通スルヲ以テ振出人其他ノ手形上ノ利得者カ積極的行爲ヲ爲スコトナシ故ニ法律ハ該時期ニ支拂停止ヲ知ルコトヲ以テ要件ト定メタリ之ヲ換言セハ手形ノ振出又ハ裏書讓渡以前ニ於テ手形支拂義務者ノ支拂停止ノ事實カ存在且ツ振出人等カ之ヲ知リタルニ於テハ(此等ノ者カ手形ノ支拂金額ヲ破産財團ニ償還セサルヘカラス其理由ハ爲替手形ノ振出人又ハ委託者ハ支拂義務者ニシテ且ツ支拂ヲ停止シタル手形ノ支拂人ヨリ又約束手形ノ第一裏書讓渡人ハ振出人ニシテ且ツ支拂ヲ停止シタル手形ノ支拂人ヨリ形式上直接ニ支拂ヲ受ケサルモ實質上間接ニ所持人ノ手ニ於テ支拂ヲ受ケタルモノナリ此等ノ者カ手形ノ支拂義務者ノ眞實ナル債權者ニシテ且ツ支拂ヲ受ケタルモノニシテ所持人其他ノ裏書讓渡人ノ如キハ一ノ仲介人ニ外ナラス眞

實ノ債權者タル此等ノ者カ債務者タル手形支拂義務者ノ支拂停止ヲ知ルニ於テハ之ヨリ有效ナル支拂ヲ直接ニ受タルコトヲ得ス隨テ間接ニ亦之ヲ受タルコトヲ得ナレハナリト云フニ在リ(第九九一條第二項)獨逸破産法第三四條小切手ニ關セテハ法律上別ニ明文ナシ是レ蓋シ千八百三十八年佛蘭西商法制定ノ當時ニ於テハ小切手ナル制度ノ發明ナカリシニ基ケルナルヘシ而シテ小切手ハ他ノ手形ヨリモ一層信用ヲ確實ニシ且ツ其流通ヲ容易ナラシムルノ必要アルカ故ニ商法第九百九十一條第一項ノ適用トシテ受ケタル支拂ヲ破産財團ニ償還スルコトナカルヘシ但シ小切手ハ爲替手形ト類似スルヲ以テ小切手ノ振出人カ其振出ノ際支拂人ノ支拂ヲ停止シタル事實ヲ知ルニ於テハ商法第九百九十一條第二項ニ依リ支拂金額ヲ破産財團ニ償還セサルヘカラサルヤ言テ決タス此手形支拂金額償還ニ關スル例外ハ第三者タル手形所持人カ支拂ヲ停止シタル手形支拂義務者ヨリ支拂ニ至リタル手形ノ支拂ヲ受ケタル場合ニ於テ適用セラルルニ止マルヲ以テ第一ニ支拂期ニ至ラサル手形ノ支拂若クハ期限ニ至ラサル手形ノ代物辨濟ノ如キハ商法第九百九十條ノ適用トシテ當然無効タル

ハタ第二ニ手形カ流通セタルカ爲メニ支拂停止ノ手形義務者ヨリ爲替手形ノ振出人自己指圖式ノ爲替手形其他ノ手形發行ノ利得爲爲替手形ノ振出委託者カ約束手形ノ第一裏書讓渡人カ支拂ヲ受ケタルトキハ支拂金額ノ返還カ償還請求權ニ何等ノ關係ナク又手形ノ信用流通ヲ害スルコトナキヲ以テ支拂ヲ維持セシムヘキ理由ナシ隨テ商法第九百九十一條第一項ノ適用ニ依リ支拂ヲ受ケタル金額ヲ財團ニ返還セサルヘカラス第三ニ拒絶證書ヲ作成シ償還請求權ヲ保全シタル後ニ於テ支拂停止ノ手形義務者ヨリ支拂ヲ受ケ或ハ支拂停止ノ振出人或ハ支拂停止ノ裏書讓渡人ヨリ支拂ヲ受ケタル場合ニ於テハ所持人ハ其受ケタル支拂金額ヲ破産財團ニ償還セサルヘカラス蓋シ所持人ハ已ニ償還請求權ヲ保全シタルヲ以テ前示ノ例外則ヲ適用スヘキ理由ナシ殊ニ支拂停止ノ振出人其他ノ手形利得者ノ支拂ニ關シテハ破産者自己カ財團ニ對シ償還義務ヲ負フコトト爲ルヲ以テ手形ノ支拂ヲ維持スルヨリシテ破産財團ニ生セシムヘキ損害ヲ償フニ足ラス隨テ商法第九百九十一條第二項ヲ適用スルノ要ナシ又支拂停止ノ裏書人ノ支拂ニ關シテハ振出人振出委託者又ハ第一ノ裏書讓渡

人カ手形ノ發行若クハ裏書讓渡ノ際ニ於テ將來ノ裏書讓渡人ヲ豫知シ其支拂停止者ナルヤ否ヤヲ知ルノ理ナキヲ以テ前示例外則ノ適用ナキヤ言フ埃タツレハナリ第四ニ裏書讓渡人カ所持人ニ支拂ヲ爲シタル後ニ於テ支拂ヲ停止シタル前者ヨリ若クハ振出人ヨリ支拂ヲ受ケタル場合亦然リ何トナレハ此例外則ハ手形支拂義務者ノ支拂ヲ豫想スルノミナラス已ニ拒絶證書作成後ニ係ルヲ以テ償還請求權ヲ害スルモノト謂フヘカラサレハナリ然レトモ第四ノ場合ニ於テハ商法第九百九十一條第二項佛蘭西商法第四四九條ノ文意廣汎ニシテ拒絶證書ノ存セナルコトヲ要件ト爲ス旨ヲ明示セシム手形ノ信用ヲ尊重シ人ニ對シ爲シタル支拂ヲ豫想シタル旨ヲ明示セザルト手形ノ信用ヲ尊重シ其流通ヲ容易ナラセムル爲メトヲ以テ拒絶證書ノ作成如何ニ拘ラス又手形支拂受者ノ如何ヲ問ハス手形ノ支拂ノ攻撃ヲ否認シ商法第九百九十一條第二項ハ手形ノ振出人第一裏書讓渡人ヲシテ支拂金額ヲ破産財團ニ償還セシムルヲ主タル目的トセス却テ手形上ノ支拂ヲ受ケタル者ヲシテ商法第九百九十一條第一項佛蘭西商法第四四七條ノ適用ニ基ケル支拂コレタル金額ノ償還ヲ免除

セシムルヲ主タル目的ト爲ス故ニ時トシテハ支拂停止ノ手形支拂義務者カ所持人ニ支拂ヲ爲シタル場合ニテラナルカ爲メニ振出人等ニ對スル商法第九百九十一條第二項ニ規定シタル債還權ノ行使セラレタルコトアルモ毫モ問フ所ニアラズト論述シ以テ手形支拂ノ債還ヲ支拂受領者ニ強フルコトヲ得スト反對スル學說アリ佛蘭西法學者「オシカン」氏ノ如キハ最モ熱心ナル此派ノ一論者ナリ其當否ニ關シテハ諸君ノ研究ヲ煩サン(乙)債務者ノ權利行爲即チ有價行爲カ取付サレタルトキハ即チ(1)破産者タル債務者ノ爲シタル債權若クハ其他ノ債利ノ移轉行爲カ取消サレタルトキハ相手方ハ其讓受ケタル債利ヲ破産者ニ返還シ以テ管財人ニ之ヲ換償スルコトヲ得セシメサルヘカラス而シテ現物ノ返還ヲ爲スコトヲ得ナル場合ニ於テハ之ニ相當スル價額ヲ返還シ又目的物ノ滅失毀損果實ノ返還其他費用償還等ノ責任ニ關シテハ民法ニ從ヒ其有無及ヒ範圍ヲ定ム(民法第一九〇條第一九一條第一九六條)(2)破産者タル債務者ノ爲シタル債權ノ成立行爲カ取消サレタルトキハ相手方タル債權者ハ破産手續ニ加ハラサルノ意味ニ於テ取消ノ目的タル返還アリ故ニ此種ノ債權者カ破産手

續ニ加ハラタルトキハ管財人カ異議ヲ申立テ之ヲ排斥スルコトヲ得ヘシ(3)破産者タル債務者ノ爲シタル他物權ノ設定行爲地上權質權等ノ設定カ取消サレタルトキハ相手方タル取得者カ該權利ヲ破産債權者團體ニ對シテ主張セサルノ意味ニ於テ取消ノ目的タル返還アリ故ニ該取得者ハ管財人ヲシテ他物權ノ負擔ナクシテ換償スルコトヲ得セシムルカ爲メニ他物權設定ノ登記抹消手續ヲ爲テサルヘカラス目的物ノ滅失毀損果實ノ返還其他費用償還等ノ責任ニ關シテハ民法ニ依リテ之ヲ定ム(民法第一九〇條第一九一條第一九六條) 債權者カ其債務ノ支拂ノ爲メニ爲セタル給付カ破産財團ニ返還セラレタルトキハ該債務ニ對スル債權カ當然復活シ(獨逸破産法第三九條)破産債權トシテ主張スルコトヲ得又物上擔保及ヒ對人擔保亦復活ス(物上擔保カ債務ノ履行ニアラサル原則)(イ)質權ニ關スル占有ノ廢止ニ基キテ消滅シ且ツ破産債權者團體カ該消滅ニ因リテ利得セタルトキハ相手方ハ該團體ニ對シテ再度ノ設定ヲ請求スルコトヲ得又破産者カ爲シタル權利行爲ノ取消ノ結果トシテ相手方ハ義務不履行ニ基テ請求權ヲ破産者ニ對シテ主張スルコトヲ得獨逸破産法第三

欠債而シテ該請求權ハ其發生原因カ破産宣告以前ニ於テ法律關係ニ存スルヲ以テ破産手續開始後ニ於テ破産債權者トシテ主張スルコトヲ得ヘシ破産債權者團體ヲ害シ配當額ヲ減少シ該團體ノ利益ノ爲メニ設ケラレタル取消權ノ注意ニ反スルヲ理由トシテ反對ニ決スルハ正當ノ見解ニアラス

取消關係ハ不法行為關係ニアラズ隨テ其成立ニ付キ義務者ノ故意若クハ過失ヲ要セサルヤ當然ナリ是ヲ以テ委任者カ破産者タル債務者ト其支拂停止ヲ知ラテ爲シタル權利行為ハ縱令委任者カ之ヲ知ラサルトキト雖モ取消スルコトヲ得委任者カ返還ノ義務ヲ負フ又取消ハ破産財團ニ屬スヘキモノノ返還ヲ目的ト爲スニ止マルヲ以テ相手方カ權利行為ノ結果トシテ破産者ニ給付シタル目的物カ破産財團ニ現在シ若クハ該財團ノ利益ニ歸シタルトキハ相手方ハ破産債權者團體ニ對シ現物ノ返還若クハ利得ノ償還ヲ請求スルコトヲ得何トナレハ該請求ハ破産財團上ノ請求權ノ一種ナレハナリ其他相手方ハ民法ノ規定ニ從ヒ該請求權ヲ破産債權者團體ニ對スル債務ト相殺スルコトヲ得ヘシ取消

テ效果)

相手方ノ承継人ニ對スル取消權ノ效力ニ關シテハ法律上別ニ規定ナシト雖モ相續人ハ被相續人ト同一程度ノ責任ヲ負フ隨テ相續人ハ縱令善意ナリト雖モ被相續人ニシテ惡意ナル以上ハ取消ヲ排斥スルコトヲ得サルハ相續ノ法則上當然ニシテ又特定ノ承継人ハ取消ノ請求カ自己ニ對シテハ第一ノ取得者ニ對スルヨリ嚴格ニ主張スルコトヲ得ストノ區別ヲ以テ第一ノ取得者ト同一程度ノ責任ヲ負フ隨テ第一ノ取得者カ善意ナルトキハ縱令自己カ惡意ナリト雖モ取消ヲ排斥スルコトヲ得ルコトハ前述ノ法則ニ依リ瞭然タリ

(D) 日附ノ如何ヲ問ハス債權者ニ損害ヲ被ラシムル目的ヲ以テ爲シタル權利行為債務者カ債權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタル權利行為ハ相手方カ情ヲ知リタルトキニ限り之ヲ取消スコトヲ得第九九六條民法第四二四條獨逸破産法第三一條瑞西破産法第二八八條是レ廢罷訴權ノ原則ノ適用ニ外ナラス隨テ斯ル行為ハ日附ノ如何ヲ問ハス又相手方カ破産債權者タルト第三者タルトヲ問ハス之ヲ取消スコトヲ得ヘシ

(a) 要件 廢罷訴權ノ原則ノ適用ナルヲ以テ取消スコトヲ得ヘキ行為タルニ

ハ第一ニ債務者ノ詐害意思ヲ要件トシ債權者ニ損害ヲ加フルノ意思即チ詐害意思ニ於テ爲シタル權利行爲タルニハ行爲者カ其行爲ヲ債權者ニ對シ其債權ニ對スル辨濟ノ可能ヲ奪フ目的ヲ爲シタルモノタルコトヲ要シ行爲者カ其行爲ニ因リテ債權者ニ對スル辨濟ノ可能ヲ奪フコトヲ認識スルヲ以テ是レヲトセス蓋シ行爲者カ其行爲ノ結果トシテ當然債權者ニ損害ヲ加フルニ至ルコトヲ認識シタル事實ハ行爲者カ詐害行爲タル旨ノ證明ノ材料ト爲ルニ止マレハナリ債權者カ特定ノ債權者ヲ他ノ債權者ヨリ特別ニ利益セシメント欲スルノ意思ハ債權者ニ損害ヲ加フルノ意思ト同視スヘキモノニアラス此二者ノ意思ハ併存スルコトアルヤ當然ナリ

取消ナルヘキ行爲カ破産者ノ代理人ニ依リテ爲サレタル場合ニ於テハ債權者ヲ詐害スル意思ノ存否ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム但シ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒテ特定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ詐害ノ意思ノ存否ハ被代理人タル破産者本人ニ付キ之ヲ定ム(民法第一〇一條、獨逸民法第一六六條第二ニ相手方カ其情ヲ知リタルコトヲ要件トス相手方カ行爲ノ成立ノ當時ニ於テ債權者ニ詐害意思

ノ存スルコトヲ知リタル以上ハ其取得行爲ノ直接ナルト相手方カ破産財團ニ屬スヘキ債務者ノ特定財産ヲ取得シタルト間接ナルト債務者ノ財産上ノ損害ニ於テノ利益ヲ取得シタルト)ヲ問ハサルナリ但シ相手方カ行爲ノ完成後ニ至リ始メテ其情ヲ知リタル場合ニ於テハ該要件ヲ缺クヲ以テ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス相手方ニシテ若シ行爲成立ノ當時情ヲ知ルニ於テハ或ハ債務者ト共ニ權利行爲ヲ爲ササルヘキヲ以テナリ相手方ノ情ヲ知ラサルコトカ其過失ニ基クタルトキハ情ヲ知リタルコトト同視スルヲ正當トシ又取消サルヘキ行爲カ相手方ノ代理人ニ依リテ爲サレタルトキハ前述ノ法則ニ基キテ情ヲ知リタルヤ否ヤノ事實ヲ定ム(民法第一〇一條)相手方ノ一般承繼人ニ對シテハ何等ノ制限ヲ受タルコトナクシテ取消權ヲ主張スルコトヲ得レトモ其特定承繼人ニ對シテハ其權利取得ノ際ニ債務者ニ詐害ノ意思ノ存シタル旨ヲ知リタルコトヲ要ス其理由ハ前述シタル所ト同一ナレハ茲ニ之ヲ省略ス第三ニ債權者カ實害ヲ受ケタルコトヲ要件トス取消サルヘキ行爲ニ因リテ破産財團カ破産債權者ニ完済スルニ不十分ト爲リタルトキハ勿論從前ノ有様ニ比シ尙ホ一層不十



分ト爲リ將來不十分ト爲ル虞アリ若クハ不十分ト爲ルコトナシト雖モ外國所  
在ノ財産ヲ換價セサルヲ得サルニ至リタルカ如キ完済ヲ受ケルニ困難ナル事  
情ヲ發生シタルトキハ債權者ノ實害ヲ受ケタルノ結果ヲ生シタリト謂フコト  
ヲ得ヘシ以上三要件ヲ具ヘサル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ス蓋シ債權者ニ實  
害ヲ被ラレメサルニモ拘ラス取消ヲ許スハ徒ニ手續ヲ煩雜ナラシムルニ止マ  
リ何等ノ實益ナク又債務者カ詐害ノ意思ヲ有シ相手方カ之ヲ知ル場合ニアラ  
スハ法律上認容スルヲ得サル不法行爲ナルモノナケレハナリ法律ハ取消サ  
ルヘキ權利行爲ニ付キ何等ノ列記例示若クハ限定ヲ爲ササルヲ以テ法律上之  
ヲ解明セサルヲ得ス權利行爲ナルカ故ニ契約ノ如キ法律行爲ノミナラス請求  
ノ拋棄ノ如キ訴訟行爲亦取消スコトト爲ル尙ホ民事訴訟法第四八三條參考又  
獨リ積極的行爲ノミナラス消極的行爲即チ債務者カ自己ノ資産ニ屬スヘキ財  
産ヲ維持シ又ハ債務ヲ免ルルカ爲メニ爲スヘキ意思表示ヲ爲ナス若クハ手續  
ヲ盡ササル不行爲亦取消スコトヲ得時効ノ完成ヲ妨クルカ爲メニ中斷ノ手續  
ヲ盡ササルノ類然レトモ未タ自己ノ資産ノ一部分ヲ爲ササル財産ヲ取得セザ

ル不行爲ハ取消ヲ許テス蓋シ取消ノ目的ハ債務者ノ資産ヨリ離脱セタル財産  
ヲ再ヒ資産中ニ入ルルニ在ルヲ以テ未タ資産ニ屬セサルモノハ之ヲ如何トモ  
爲スコト能ハサレハナリ故ニ債務者ニ對シ贈與ヲ受ケ(前述ノ說明參考或ハ會  
社ノ理事ノ如キ多數ノ報償ヲ受ケヘキ職務ニ就クコトヲ強フルヲ得ス相續ノ  
拒絕ニ關シテハ法律上爭アリ羅馬法ニ於テハ相續ノ承認ヲ專屬的權利ノ行使  
ト認メタルヲ以テ相續財産ハ承認ニ依ルニアラスハ相續人ノ資産ニ屬セス  
隨テ相續ノ拒絕ハ財産ヲ取得セサル不行爲ナルヲ以テ取消ノ目的ト爲ラナリ  
シ佛蘭西民法第七八八條ハ全ク之ニ反シ被相續人ハ相續ノ開始ニ因リ法律上  
當然被相續人ノ財産ニ付キ債權利ヲ取得スルモノニシテ相續ノ承認ハ相續財産  
取得ノ行爲ニアラスシテ確認ノ行爲タルニ過キス隨テ相續ノ拒絕ハ債務者タ  
ル相續人ノ資産ニ影響ヲ及ボスヘキ不行爲トシテ取消ノ目的ト爲ル我民法第  
九八六條ニ於テ亦然ラン(前述ノ說明參考) 取消ノ行爲ハ假令被相續人ハ  
取消スヘキ行爲ハ假令的行爲ニアラスシテ當事者間ニ於テ眞實ニ成立シタル  
行爲ナリ何トナレハ前者ハ法律上當然無効ナルヲ以テ之ヲ取消スノ必要ナケ

レハナリ是ヲ以テ買買ヲ假設シテ成立シタル贈與ニ關シテハ取消ノ目的ハ買買ニアラスシテ贈與タリ  
 (b) 取消ノ效果 取消權者取消ノ方法及ヒ取消ノ目的ハ前述セタル所ニ同シ故ニ之ヲ省略ス(A)ノ(B)参考)  
 (三) 登記ノ無効  
 破産宣告以前ニ於テ破産財團ニ屬スル債務者ノ財産上ニ有效ニ取消シタル抵當權不動産質權等ノ如キ第三者ニ對抗スルニ登記ヲ要件ト爲ス權利ニ關シテハ其登記ヲ破産宣告以後ニ於テ爲スコトヲ得ス蓋シ登記ハ當事者間ニ於テハ一ノ權利確認ニシテ且ツ破産宣告以後ノ登記ハ破産の清算ノ基本ヲ亂ルヲ以テ債務者ノ其財産ニ對スル管理及ヒ處分權喪失ノ結果トシテ之ヲ爲スヲ得タルノミナラス債權者ヲシテ決ニ登記ヲ爲サズメ以テ債務者力故ラニ之ヲ遲延シ支拂停止ノ狀態ニ於ケル嫌疑ヲ彌縫セントスルノ弊害ヲ防止スルニ在リ(第九九二條)……破産宣告ノ日マテ……佛蘭西商法第四四八條第一項白耳蘭商法第四四七條伊太利商法第七一〇條埃太利破産法第一二條等然レトモ破産宣告以

後ニ於テ破産者ノ取得シタル財産上ニ已ニ成立シタル權利例ヘハ相續財産上ニ設定シタル未登記ノ抵當權ノ類ハ破産宣告以後ト雖モ尙ホ有效ニ登記スルコトヲ得ヘシ何トナレハ不當利得ヲ許ササル原則ノ適用トシテ破産債權者ハ破産者ノ取得シタル財産ニ付キ其負擔ヲ除外レタル部分ニアラスンハ破産財團トシテ配當ノ用ニ供スルコトヲ得ナレハナリ獨逸破産法ハ權利ノ取得者タハ消滅ニ付キ土地臺帳若クハ船籍簿ニ登記スルニアラスンハ其效力ヲ生セザル物權獨逸民法第八七三條第八七五條第一二六〇條ニ關シテハ破産者カ其相手方タル權利者ニ對シ民法第八百七十三條第八百七十五條第千二百六十條ニ基キテ爲シタル意思表示ノ破産宣告ニ因リテ破産債權者團體ニ對シ無効ト爲ラス但シ該意思表示カ破産者ノ爲メニ驅束力ヲ有シ(民法第八七三條第二項第一二六〇條)且ツ登記ノ申立カ破産手續開始以前ニ登記所ニ爲サレタル場合ニ限ル旨ヲ規定シタリ(民法第八七八條)隨テ斯ル申立ニ基キ爲シタル登記ニ因リテ取得シタル物權ハ破産債權者ニ對シ效力ヲ有ス登記カ破産手續開始以後ニ於テ爲サレタル場合亦該效力ヲ發生スルヲ妨ケズ(獨逸破産法第一五條第二項)

破産宣告以前ニ於テハ債務者カ未タ財産ノ管理及ヒ處分權ヲ喪失セザルヲ以テ支拂停止以後破産宣告以前ニ於ケル登記ハ有效ナルコトヲ原則トス然レトモ法律ハ例外トシテ權利取得ノ時期ヨリ十五日ヲ經過シタル支拂停止以後ニ於ケル登記ヲ無効ト爲シタリ(佛蘭西商法等ハ無効ト爲スシテ之ヲ取得シ得ヘキモノト爲シタリ我商法第九百九十二條ハ……トキニ限リ……)登記ヲ爲スコトヲ得スレ規定シタルヲ以テ反對推理上之ニ反スル登記ハ無効ナリト論結セザルヲ得ス是レ破産ノ運命ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ豫知シタル債務者ハ其財産上ニ設定シタル質權抵當權等ノ登記ニ依リ財産ノ地位ノ不利益ナル事實ヲ公衆ニ表白シ爲メニ社會ノ信用ヲ失フコトヲ恐レ債權者ニ乞フテ故ラニ登記ヲ遲延シ信用ヲ維持シ取引ヲ繼續シ以テ一時ノ彌縫策ヲ試ミシムルモ其目的ヲ達セザルヨリ前ニ登記遲延ノ求メヲ認容シタル債權者ニ破産手續開始ノ旨ヲ豫知セシメ以テ登記ヲ爲サシムルト同時ニ爾後取引ヲ爲シタル債權者ヲ詐害シ大ニ取引ノ安全ヲ妨害スル害毒ヲ防止スルノ目的ニ出ラタルノミナラス斯ル求メニ應シタル債權者ニ對スル怠慢若クハ其謀ノ責罰トシテ登記ニ必要ナル時

ノ時ニ限リテ世間ヨリ資金ヲ吸收スルモノニシテ普通ノ商業銀行ノ如ク常ニ店舗ヲ開キテ遊金ヲ受クルコトナシ隨テ資金ノ需要少キ時ニ多額ノ預金ヲ提供セラレ遊金ヲ抱キテ利子ヲ損スルカ如キ恐ナキカ故ニ資金ノ用途性質抵當價格借主ノ人格ニ關スル調査ヲ疎略ニシ取急キテ貸付ヲ爲スカ如キ必要ヲ生スルコトナク常ニ慎重ノ調査ヲ爲シ深ク將來ヲ慮リ靜ニ最微固ナル貸付ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(3)安全ニシテ費用少シ 土地抵當銀行ハ土地抵當トシテ徵スルニ當リテハ其土地ノ收益賣買價格ヲ基礎トシテ嚴密ナル審査ヲ爲シ既往ノ事實ヨリ將來ノ變化ヲモ推考シテ貸付年限中如何ニ低落スルモ之ヨリ低落スルコトハ萬ナカルヘシト認ムル點ヲ以テ其土地ノ評定價格ト爲シ其價格ノ二分ノ一若クハ國ニ依リテ三分ノ二以内ヲ貸付タルモノナルカ故ニ此種ノ貸付金ハ時價ノ變動甚シキ商品株式等ヲ抵當トシ貸付ヲ爲シ若クハ引當ナキ手形ノ割引等ニ比スレバ如ル安全ナリト謂フコトヲ得ヘシ加之年賦貸付金ハ年期毎ニ元金ヲ減却スルモノナルカ故ニ抵當物ノ價格ノ元金額ニ對スル割合ハ次第

ニ増加スルナリ又不動産モ時ノ事情ニ依リテ價格ノ低落スルコトアルヲ以テ銀行モ其場合ニハ元金ノ一部償還ヲ請求シ又増抵當ノ差入ヲ要求シテ貸付金ト抵當地ノ評定價格トノ割合ヲ維持スルコトヲ必要トスル場合ナキニアラスト雖モ土地ハ長年月ニ亘リテ次第ニ其價格騰貴スルモノナルカ故ニ長期貸付ノ抵當トシテ最も安全ナルモノト謂フヘシ又長期年賦償還法ニ依ルトキハ農民ハ其收入ヲ以テ年賦金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得ルカ故ニ一時全額拂ニ比スレハ其償拂ノ辨濟ノ期ヲ誤ルコト少シ是レ土地抵當銀行ノ貸出ハ安全ナリト謂フコトヲ得ル所以ナリ又費用少シト云フハ當初貸付ノ際ニハ土地ノ評價登記手續等ノ繁雜ナル手數ト費用トヲ要スレトモ一口ノ貸付金稍多額ナルト一度貸付ケ置クトキハ長年月ノ間再ヒ貸付ノ手數ヲ要セス例ヘハ佛國土地抵當銀行ノ如キハ一千八百九十年十二月末現在土地抵當貸付金八〇〇〇〇〇〇〇磅ナルニ拘ラス其年一箇年ニ貸出シタル金額ハ三三一〇〇〇〇磅即チ略二十四分ノ一ニ當ルヲ見レハ巨額ノ貸金ヲ爲シ居ル割合ニハ一箇年ニ貸付ノ手數ヲ要スル額少ク隨テ貸付ノ費用少キコトヲ知ルヘシ

シ又資金ヲ吸收スル方ヨリ言フモ隨時隨意ノ金額ヲ預ルニ比スレハ一時ニ債券發行ニ依リ資金ヲ集ムル方費用ヲ要スルコト少シ

(三) 負債者ノ利益

土地抵當銀行ノ負債者ニ與フル利益ハ彼等カ昔チ一箇人タル金貸若クハ商業銀行ノ外金融ヲ得ルノ途ナカリシ時ニ感シタル不便ヲ除去シタルニ在リ

(二) 三〇頁參照

(甲) 資金ノ借入自由ナリ 土地抵當銀行ハ其營業法確實ニシテ取引ノ範圍廣キカ故ニ必要ニ應シテ公衆ヨリ十分ニ資金ヲ吸收スルコトヲ得ヘク且ツ何時ニテモ借入ノ請求ニ應センカ爲メニ常ニ多少ノ資金ヲ備ヘ置クカ故ニ農業者ハ相當ノ抵當ヲ提供スルトキハ何時ニテモ其欲スル丈ノ資金ヲ借入ルルコトヲ得ヘシ

(乙) 利子低廉ナリ 土地抵當銀行ハ一方ニ於テハ債券ノ發行ニ由リテ低利ノ資金ヲ社會公衆ヨリ吸收スルコトヲ得ヘク他方ニ於テハ貸付方法借主ノ業容ノ状態ニ適合スルカ爲メニ元利ノ取立ヲ誤リ損失ヲ受ケルコト少キカ故

ニ借主ヨリ高利ヲ求ムル必要ナキヲ以テ商人ノ金貸又ハ商業銀行ニ比スル  
 ハ農業者ニ對シテ低利ニ貸付ヲ爲スヲ得ルナリ  
 (5) 返済ノ方法適當ナリ 土地抵當銀行ハ長期年賦ノ貸付及ヒ短期定期ノ貸  
 付ヲ爲スカ故ニ借主ハ其資金ノ用途ニ從ヒ其好ム所ノ返済方法ヲ以テ資金  
 ヲ借入ルルコトヲ得ヘシ

### 第二項 農業銀行ノ功績

農業者ニ便利ナル金融ヲ與ヘンカ爲メニ計畫セラレタル土地抵當銀行ハ瑞西  
 國ヲ除キ其他ノ歐洲諸國ニ於テハ其恩惠ハ獨リ中産以上ノ者ノミニ限ラレ小  
 農ニ及ハス其理由ハ小農ハ抵當トシテ差出スヘキ土地ヲ有スルコト少キト借  
 入金額少キモ抵當地ノ價格ノ評定登記其他ノ借入手續ヲ爲スニ要スル手數ト  
 費用ハ其割合ニ少カラサルカ故ニ此種ノ銀行ヨリ資金ヲ借入ルルコトハ彼等  
 ニ取リテハ却テ不便不利ナルカ故ナリ

### 第二款 工業銀行

工業銀行ハ近世ニ至リテ遽ニ勃興シタル工業の大企業就中株式會社ニ依リテ  
 營マルルモノニ要スル基本的資本ヲ企業者ニ供給スルコトヲ以テ主タル目的  
 ト爲ス所ノ銀行ヲ謂フ今茲ニ此種ノ銀行ノ一適例ナル佛國動産銀行ノ營ミタ  
 ル業務ヲ述フヘシ此銀行ハ未成會社ノ株式既設會社ノ増株若クハ社債ノ募集  
 ニ應シ或ハ其募集ニ助力シテ直接ニ工業會社ニ資金ヲ得セシメ或ハ工業會社  
 ノ株券社債券ヲ擔保トシテ金錢ヲ貸付ケテ間接ニ此等ノ會社ノ成立及ヒ發達  
 ヲ助ケ又時トシテハ公債ノ募集ニ應シ有價證券ノ賣買交換ヲ爲シ關係アル會  
 社ノ爲メニ相當ノ手數料ヲ納メテ其社ノ株券債券ノ番號ノ證明名義書換利札  
 若クハ元金ノ拂戻及ヒ計算事實等ヲ執行シタリ而シテ此等ノ業務ヲ爲スニ必  
 要ナル資金ハ自己ノ資本債券ノ發行其所有ニ歸シタル有價證券ノ賣却若クハ  
 之ヲ擔保トスル借入等ニ因リ得タル資金及ヒ預金等ヨリ得タルモノナリ  
 此種ノ銀行ハ債務ノ發行ニ由リテ比較的ニ效益少キ零碎ノ資金ヲ集メテ大賣

本ト爲シ鐵道運河鑛山等ノ大企業ノ設立及ヒ擴張ヲ援助スルカ故ニ其運用宜キヲ得ルトキハ社會ニ對スル效用甚ク大ナルモノナリ然レトモ銀行ノ當局者ハ動モスレハ銀行ノ利益ヲ大ナラシムルヲ以テ唯一ノ目的ト爲シ一旦引受ケタル有價證券ハ速ニ拂込價格以上ニ賣却シテ其資金ヲ更ニ新ナル企業ニ放下シ資本ノ運轉迅速ニシテ利益ヲ得ルコト益多キヲ喜ビ銀行ノ關係スル事業ノ確否ヲ問ハサルニ至ルコトアリ又一旦關係レタル會社ノ事業危險ニ瀕スルトキハ速ニ其會社ノ株券ヲ情ヲ知ラサル者ニ賣却シ甚シキニ至リテハ利益ノ少キ會社ノ事業ヲ疎更ニ利益多キカ如クニ變ヒ其株券ノ騰貴シタルニ乘シテ之ヲ買リ扱キテ公衆ヲ害シケルカ如キ類例甚ク乏シカラズ

**第三款 商業銀行**

商業銀行トハ商人ニ對シテ運轉資金ヲ供給シ之カ爲メニ預金田納ノ事務ヲ處辨スルコト等ノ業務ヲ爲ス所ノ銀行ニシテ外部ヨリ資金ヲ得ル形式ノ異ナルニ從ヒ之ヲ分チテ通常預金銀行券發行銀行ノ二トス

**第一項 預金銀行**

預金銀行トハ主トシテ預金ニ因リテ得タル資金ヲ以テ割引貸付有價證券ノ買入等ノ業務ヲ爲ス所ノ銀行ヲ謂フ今茲ニ此等ノ業務ノ如何ナルモノナルヤヲ略説スヘシ

**預金** 自己ノ資本ノミヲ貸付ケルモノハ金貸ニシテ銀行ニアラス銀行ハ自己ノ資本ノ外廣ク外部ヨリ資金ヲ借入レテ再ヒ之ヲ貸出レ其間ニ立チテ利益ヲ收ムルモノナリ然レトモ此銀行ノ借入レント欲スル資金ハ政府地方團體工業會社等ノ發行スル長期ノ公債社債券等ノ募集ニ應スルカ如キ稍々高歩ノ利子ヲ得ンコトヲ望ム種類ノモノニアラス目下其用途定マラス何事ヲモ爲ナス何物ヲモ生産セス其用途ノ決スルマテ持主ノ財源又ハ金庫ノ裡ニ貨幣ノ形ヲ以テ貯藏セラレテ存在スヘキ運命ヲ有スル所ノ流動資本ナリ此形ヲ以テ存在スル資本ハ何レノ國ニ於テモ甚ク多額ナルモノナリ此銀行ハ此種ノ資金ヲ吸收セシカ爲メニ公衆ニ向ヒテ曰ク諸君ハ入用ノ生スルマテ其貨幣ヲ予ニ預ケヨ子

諸君ノ爲メニ之ヲ安全ニ保管シ要求次第返却スヘク且ツ預リタル期間ニ對シテ相當ノ利子ヲ任拂フヘシ是レ諸君ノ爲メニ大ナル利益ニアラスヤ諸君若シ其貨幣ヲ各自ノ手裡ニ藏セハ何等ノ利益ヲ生セザルモノナラス之ヲ保管スルノ煩勞ヲ免レサルヘシ諸君若シ其貨幣ヲ予ニ預ケ入レテハ予ハ諸君ノ爲メニ指圖ニ從ヒ諸君ニ代リテ諸君ノ債權者ニ任拂フ爲メ諸君ノ債務者ヨリ金銭ヲ受取ルヘシ是レ諸君ノ爲メニ大ナル便利ニアラスヤト此言ニシテ公衆ノ理解スル所ト爲リ且ツ此銀行ニシテ確實ナルトキハ甚タ容易ナル條件ヲ以テ巨額ノ資金ヲ吸收スルコトヲ得ヘシ而シテ此種ノ預金ヲ稱シテ當座預金ト謂フ銀行ハ向ホ此外ニ一定ノ期日ニ拂戻ヲ爲スノ約束ヲ以テ稍高歩ノ利子ヲ支拂ヒテ預金ヲ爲スコトアリ之ヲ定期預金ト謂フ又當座預金ニシテ之ヲ引出サントスルニハ預主ヨリ豫メ一定ノ期日前ニ豫告ヲ爲スヘキコトヲ約スルコトアリ之ヲ通知預金ト謂フ

割引 割引トハ取引ノ當日ヨリ仕拂ノ期日マテノ利子ヲ證券面ノ金額ヨリ引去リタル價格ヲ以テ未タ仕拂期日ノ到來セサル證券ヲ買取ルコトヲ謂フ定期

忍則ヲ敢行スルニ至ルヲ防キタルナリ ○八八五六

地租條例ニ定メタル刑ハ犯則者自首スルトキハ之ヲ免スルモノナリ但シ此場合ニ於テ追徵スヘキ地租ハ之ヲ免スルコトナシ地租條例第二九條

第二章 所得稅

第一節 所得稅

我邦ニ於テ始メテ所得稅ヲ施行シタルハ實ニ明治二十年ナリ當時政府ハ北海道物産稅ノ稍ヤ重キニ過タルヲ實アルヲ見之カ輕減ヲ爲ス目的ヲ以テ北海道水産稅則制定ノ際アリ之ニ依リテ國庫ノ收入ヲ減スルコト凡ソ二十五萬餘圓ニ上ラントスルヲ以テ之ヲ補填スルノ必要アリニ加ヘ一方ニ於テハ漸次國防計畫ヲ完成スルカ爲メ經費ヲ要スルコト尠カラサルモノナラス一般行政費亦社會ノ進歩ト共ニ漸次其額ヲ増加スルハ免レサルノ趨勢ナルカ故ニ歳入ヲ増加シテ時勢ノ急ニ應スルノ必要アリシト雖モ當時國庫ノ重要財源タル地租ハ其負擔輕カラスシテ更ニ之ヲ増加スルノ餘地ナカリシノミナラス時ノ當局

若其他ノ租稅ニ在ラザモ亦其稅率ヲ增加シ以テ歲入ノ增加ヲ求メシヨリ  
 寧ロ更ニ新稅目ヲ選ビテ之ヲ制定シ之ニ依リテ所製ノ金額ヲ得ルヲ以テ政策  
 ノ得タルモノト爲シ而シテ所得稅ナルモノニ能ク貧富ノ程度ニ應ジテ負擔ノ  
 衡平ヲ得ルモノナルヲ故ニ之ヲ以テ選擇スルニ新稅目ト爲スヲ以テ最モ時宜  
 ニ適スルモノト爲シ明治二十年勅令第五號ヲ以テ所得稅法ヲ制定シ同年七月  
 一日ヨリ之ヲ實施シタリ明治二十年ニ於テハ年ノ央ヨリ勅令ヲ施行シタリシ  
 ル當時ノ書類ニ徵スルトキハ同年度ノ收入ト爲ルヘキ所得稅額ヲ六十萬圓ト  
 爲シタルモノノ如クナルヲ以テ見レバ所得稅法制定當時ニ於テ新稅ニ依リ  
 年ニ凡ソ百二十萬圓ノ收入ヲ得ルトスルニ在リシカ如シ今明治二十年ヨリ同  
 三十一年ニ至ル十二年間ニ於ケル所得稅ノ賦課額ヲ要クシテ左ノ如シ

明治二十年 五二七八二四  
 明治二十一年 五二七八二四  
 明治二十二年 五二七八二四  
 明治二十三年 五二七八二四  
 明治二十四年 五二七八二四  
 明治二十五年 五二七八二四  
 明治二十六年 五二七八二四  
 明治二十七年 五二七八二四  
 明治二十八年 五二七八二四  
 明治二十九年 五二七八二四  
 明治三十年 五二七八二四  
 明治三十一年 五二七八二四

明治二十四年 五二七八二四  
 明治二十五年 五二七八二四  
 明治二十六年 五二七八二四  
 明治二十七年 五二七八二四  
 明治二十八年 五二七八二四  
 明治二十九年 五二七八二四  
 明治三十年 五二七八二四  
 明治三十一年 五二七八二四

所得稅法ハ明治二十年制定以テ市町村及府縣制ノ施行ニ依リテ無窮ノ之ト  
 一致セシムルカ爲メ特別法令ヲ以テ補則ノ如キ規定ヲ設ケタルノ外何等變改  
 セザレタル所アリトナシ然レモ明治二十年制定ノ所得稅法ハ年々經テ  
 右左ノ點ニ於テ時勢ニ適應セザルニ至リテ茲ニ其修正ノ必要ヲ認メ其修正  
 一 納稅義務者ノ範圍明カナラヌ 該法ハ單ニ三百圓以上ノ所得ヲ得ル人民  
 一 納稅義務者ノ範圍明カナラヌ 該法ハ單ニ三百圓以上ノ所得ヲ得ル人民



ノ納稅義務ニ付テハ法律ノ意義分明ナラズ該法制定ノ當初ニ於テハ内外ノ交通今日ノ如ク頻繁ナラザリシノミナラス舊條約ノ下ニ於テ外國人ニ對シテハ課稅ヲ爲ササル慣例ナリシカ故ニ此ノ如キ規定モ亦實際ニ於テ甚シキ支障ヲ見サルヲ得タリト雖モ内外交通隆盛ト爲リ彼我互ニ多數ヲ在留人ヲ見ルニ至リ特ニ改正條約ノ實施ト共ニ外國人ト雖モ帝國ノ課稅權ニ服從セザルヘカラサルニ至リタル以上外國ノ内外ニ涉リテ納稅義務者ノ範圍ヲ明カニスルニアラザレハ法律ノ施行上疑義ト紛争トハ殆ト絶ユルコトナカルヘシ

二 法人ニ課稅スルコトヲ得ス 所得稅法制定ノ當時ニ於テハ法人ナル觀念ハ未タ一般ニ了得セラレザリシカ故ニ該法ハ法人ニ課稅スルノ規定ヲ設ケザリシト雖モ爾後社會ノ發達ト共ニ商會社ノ物興ヲ促シ商法民法ノ實施ニ依リ法人ナルモノ茲ニ法律上ノ承認ヲ得ルニ至リテハ之ニ課稅セザルハ法ノ衡平ヲ維持スル所以ニアラス特ニ法人ニ課稅セザルノ結果ハ商人ヲシテ依リテ以テ所得稅ノ賦課ヲ免ルヲ得セシムルニ至ルヲ免レザルヲ以

テ所得稅ニ因リ收入ヲ得ントスルノ目的ヲ達スルカ爲メニモ亦法人ニ課稅スルノ必要ヲ見ルモノナリ

三 累進稅ノ目的ヲ達セス 該法ノ規定スル所ニ依レハ所得ハ之ヲ五等ニ分テ累進的稅率ヲ以テ之ニ所得稅ヲ課スルニ爲セリト雖モ既ニ課稅ヲシテ貧富ノ間ニ權衡ヲ得セシムルカ爲メニハ累進稅ノ方法ニ依ルヲ可カリトセハ僅ニ五等ノ等級ヲ以テシテハ其目的ヲ達スルコトヲ得ザルヘシ何レトナレハ等級少キトキハ累進ノ效用ヲ奏セザルノミナラス等級間ニ於ケル課率ノ差額多キニ過キ却テ權衡ヲ失フニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ累進稅ノ目的ヲ達セントモハ自ラ所得ノ等級ヲ多カクヤスルヘキヲ要スルニ非ズ

四 執行機關其宜ヲ得ス 所得稅ヲ調査決定ニ付テハ府縣知事郡區長ヲ以テ之ニ當ラシメタリト雖モ稅務執行機關ニシテ既ニ府縣知事ノ手ヲ離レテ其特定スルコトト爲ラタレ以上ハ所得稅ニ限リテ獨リ之ヲ府縣知事郡區長ニ委スヘキノ理由アルコトナシ故ニ他ノ租稅ト同シク所得稅ノ調査決定並亦稅務機關ヲシテ之ヲ行ハシムルニ可キト爲ス其亦當然ナラハ租稅ニ對シテ

右ニ就キルカ如ク點於テ所得稅法ノ既ニ其改正ヲ要スルノ時機ニ達シタ  
 ル際ノ恰モ明治三十一年度ノ豫計ニ於テハ巨額ノ歳入不足ヲ覺ル所ナリ故キ  
 茲ニ財源ノ鞏固ヲ圖ルカ爲メ増稅計畫ヲ立ツルノ必要ヲ生シタルヲ以テ明治  
 三十二年法律第七號ヲ以テ所得稅法全體ノ改正ヲ爲シ前記ノ缺點ヲ補フ  
 同時ニ之ヲ以テ歳入増加ノ一財源ヲ充ツルモノト爲シ當時政府ノ計畫ニ於  
 テハ所得稅法ノ改正ニ依リ百圓十九萬四千五百十六圓ノ增收ヲ得ルニ在リシ  
 カ如ク然ル所明治三十二年度ニ於テ實際決定又ハ增收タル所得稅額左ノ如  
 シ

種別ノ稅率別ノ納稅人總員ノ内此科所得金額ニ依リ得稅額

第一種ノ千分ノ二十五	五八四六	六四二二	一八三八七五〇	一六〇二八〇
第二種ノ十分ノ二十	九四	九五八三〇〇	二九二六六	二五九九四一
第三種ノ千分ノ五十五	二二七九七〇五〇	二五九九四一	二五九九四一	二五九九四一

千分ノ五十 一四〇六六 五六六九八二 二八三四九

千分ノ四十五 六六 一六一一九二 七二五〇三

千分ノ四十 九四 一六一五六一七 六四六二四

千分ノ三十五 一四二 一六二五〇三七 五六八七六

千分ノ三十 四六一 三九二四六〇六 二七四〇六七

千分ノ二十五 一三四一 一〇四二五八四 二七四〇六七

千分ノ二十 五二三〇 一四二三四一八四 二八四六八三

千分ノ十七 八七二六 一六〇七三三四一六 二七三三四八

千分ノ十五 三五六七九 一三三四九五五 五七一九七〇二

千分ノ十二 九七四五二 一五四三九七五六四 六五三三七七

千分ノ十 一九二五四五 六〇九四九二〇 六〇九四九三

計 三四二六五二 二〇四六六五五四 二〇五六一八八

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

計 三四八四九八 二二八二五七四七 二〇四九四九三

國總豫算ニ掲上シタル所得稅額即チ稅法改正前ノ豫算額五百三十四萬千二百三十九圓ニ比スレハ二百五十五萬三千七百圓ヲ增加シテ明治三十一年度豫算額二百三十四萬七千九百四十五圓ニ比スレハ二百五十四萬六千九百九十圓ノ増加ニシテ當初政府ニ於テ豫期シタル増加額百八十九萬餘圓ニ比スレバ凡ソ六十五六萬圓ノ增收ヲ見タルヲ結果ナリ明治三十三年度ハ今尙去年度未經過ノ中ニ在ルヲ以テ其所得稅額ハ未タ正確ナル計數ヲ得ルニ至ラズト雖モ第三種ノ所得ノモニ就テ見ルモ前年決定額ニ比スレハ大ニ増加シタルモノノ如クナルヲ以テ全部ニ於テハ前年ヨリモ大ニ増加スルモノト謂フヲ誤大カルベシ所得稅ナルモノハ民富ヲ追フテ年々増加スルノ傾向アルモノニシテ而モ所得稅ノ長所ノ一ハ則チ茲ニ在リト謂フコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ今後ニ於テラモ頗ル有望ナル財源トシテ見ルコトヲ得ヘシニ正シク云フ

第二節 現行所得稅

現行所得稅ヲ研究セントセハ左ノ諸法令ヲ參看スルニ由リテ要ス

- 一 明治三十二年法律第十七號 所得稅法
  - 二 明治三十二年勅令第七十八號 所得稅法施行規則
  - 三 明治三十二年大藏省令第十二號
  - 四 明治三十二年大藏省令第十三號
  - 五 明治三十二年大藏省令第十七號
  - 六 明治三十二年大藏省令第七十六號
  - 七 明治三十三年大藏省令第三十六號
- 予一本節ヲ納稅義務者、課稅標準、課稅率、稅金徵收納稅地納稅義務者ノ申告義務及ヒ罰則ノ七款ニ分チテ說明セントス

第一款 納稅義務者

納稅義務者ノ何人ナルヤヲ說明スルニ先チ第一著トシテ所得稅法ノ施行セラルル範圍ヲ明ニセサルヘカラス何トナレハ所得稅法施行地ニ何等ノ關係ナキ者ハ所得稅ヲ納ムル義務ヲ生ズヘキ理由ナキヲ以テ納稅義務者ト爲ルニハ所

得稅法施行地ニ於テ何等カノ關係ヲ有スルヲ必要トスルニキリ以テナリ法律ニ  
 ヲテ臺灣ニモ施行セラルヘキ場合ニハ明治二十九年法律第六十三號ノ規定ニ  
 本ツキ勅令ヲ以テ其旨ヲ公布セラルヘキモノナリト雖モ所得稅法ニ關シテ内  
 之ヲ臺灣ニ施行スルコトヲ定メタル勅令ノ公布セラレタルコト嘗テ之アルコ  
 トナキカ故ニ臺灣ニ於テハ所得稅法ノ施行ナキモノナリ而シテ内地ニ於テモ  
 所得稅法第五十條ハ沖繩縣小笠原島及ヒ伊豆七島ニハ當分所得稅法ヲ施行セ  
 テルコトヲ規定スルヲ以テ帝國中臺灣沖繩縣小笠原島及ヒ伊豆七島ハ所得稅  
 法ヲ施行セザル地ニシテ臺灣沖繩縣小笠原島及ヒ伊豆七島ヲ除ク外ノ他ノ地  
 方ハ總テ同法ヲ施行スルノ地ナリト謂ハサルヘカラス

所得稅法ハ納稅義務者ノ條件ヲ定メテ人カ同法施行地ニ關係ヲ有スルトキト  
 所得カ同法施行地ニ關係ヲ有スルトキトノ二ノ場合ニ於テ納稅義務ノ發生ス  
 ヘキモノト爲マタルヲ以テ以下此二ノ場合ヲ區別シ納稅義務發生ノ條件ヲ論  
 ゼントス

第一 人カ所得稅法施行地ニ關係ヲ有スルニ因リ義務ヲ生スル場合

所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ同法施行地ニ一箇年以上居所ヲ有シ所得ア  
 ル者ハ其所得ノ生スル淵源カ同法施行地ニ關係アルト否トヲ問ハス所得稅ヲ  
 納ムル義務アルモノナリ即チ人カ所得稅法施行地ニ關係ヲ有スルニ因リ義務  
 ヲ生スルハ左ノ二條件ヲ具備スル場合ナルコトヲ要ス

一 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スルコトヲ要ス

所得稅法ニ依リ納稅義務ヲ生スルニハ同法施行地ニ於テ居住ノ關係ヲ有セザ  
 ルヘカラス(所得稅法第一條)

甲 住所ヲ有スル者 所得稅法施行地ニ住所即チ生活ノ本據ヲ有スル者ハ所  
 得稅ヲ納ムルノ義務アルモノナリ所得稅法第一條ハ同法施行地ニ住所ヲ有ス  
 ル者ハ納稅義務アルコトヲ規定スルヲ以テ一見住所ヲ定ムルト同時ニ直チニ  
 納稅義務ヲ生スルカ如シト雖モ予ハ同法全體ノ精神ニ依リテ解釋シ其年一月一  
 日ニ於テ既ニ住所ヲ有シ爾後引續キ之ヲ有スル者モアラザレハ所得稅ヲ納ム  
 ル義務ナキモノナリト信ス蓋シ所得稅ナルモノハ年稅モシテ一箇年ノ所得ヲ  
 標準トシテ之ヲ課スルモノナリ隨テ之ヲ納稅者タル者ハ一年ヲ通シテ納稅義

務ヲ有スル者ナラサルヘカラス所得稅法カ年中途ヨリ義務ヲ生シタル場合ニ於ケル所得ノ計算方法ヲ規定セザルヲ以テ見ルモ同法ノ意ハ其定メテ以テ納稅義務者ト爲ス所ノ者ハ當ニ一月一日ヨリ其義務アル者ニシテ年中途ヨリ義務ヲ生スヘキ場合ハ之アルコトヲシト爲スモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ納稅義務ノ條件具備スルヤ否ヤハ年ノ初日即チ一月一日ヨリ之ヲ見ルヘキモノト謂ハサルヘカラス一月一日ニ於テ未タ住所ヲ有セサル者ハ法定ノ條件ヲ缺クモノナルヲ以テ之ニ對シテハ所得稅ヲ課スルコト能ハサルナリ。此ハ非難シテ曰ハシ所得稅法ノ精神ニシテ納稅者ハ一年ヲ通シテ其義務ヲ有スル者ナルコトヲ要ストスルニ在リトセハ同一ノ論法ニ依リ年中途ニ於テ條件ヲ缺如スルニ至リタル場合ニ於テハ納稅義務消滅スルモノト爲ササルヘカラス然ルニ同法第四十二條ハ所得金額決定後納稅管理人ヲ定メスシテ納稅義務者帝國外ニ住所ヲ移ストキハ其際直チニ其所得稅ヲ徵收スヘキコトヲ定ム法律カ年中途ニ於テ納稅義務ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキニ於テ其年ノ所得稅ヲ徵收セザルコトヲ定メサルノミナラス其年ノ所得稅ハ必ス之ヲ徵收

校外生規則摘要

講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス

一 今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ

第一部 毎月 五日 二十日

第二部 毎月 十日 廿五日

第三部 毎月 十五日 三十日

月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス

校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聴スル

コト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得

校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校

内生三年級ニ編入セラルルコトヲ得

校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコト

ヲ得問題ハ一間毎ニ別紙ニ認メ且一間毎ニ返

信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス

三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス

月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年三月廿一日印刷

明治三十四年三月廿五日發行

東京市芝區四谷仲町三丁目三十八番地

編輯者 小田幹治郎

印刷者 金子鐵五郎

印刷所 金子活版所

東京市芝區四ノ久保町九丁目十一番地

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 和佛法律學校

司法省  
指定

(電話番町百七十四番)